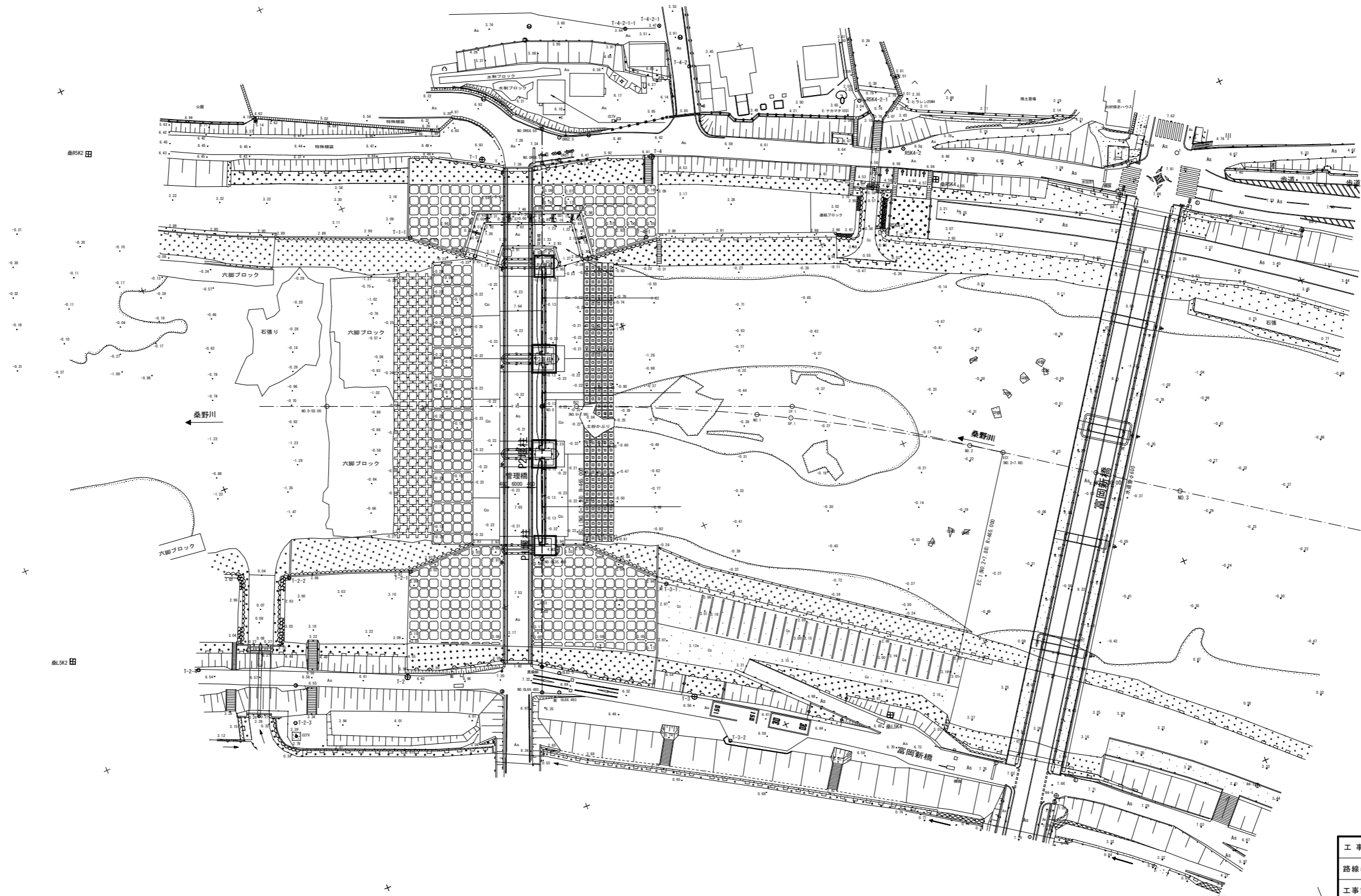
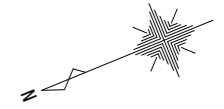


# 一般計画平面図

S=1:500



工事名	阿南 新設第一の堤 操作室改修工事(在り手掘模型)(準平日指定型)		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	一般計画平面図		
縮尺	S=1:500	図面番号	1
会社名			
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部(阿南)		

ゲート操作室建築工事特記仕様書		一の堰 工事設計図	令和 6年 6月 (全9枚)
特記仕様書			
(1) 工事概要			
1. 工事場所	徳島県阿南市宝田町		
2. 敷地面積			
3. 工事種目	1. 建物 1) 堰上屋 鉄骨造 平家建て		
1. 設備			
1) 電気設備			
2. 工事実績情報の登録			
※適用する			
3. 適用区分			
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ①風圧力 風速 (V0=36 m/s) 地表面粗度区分 (・[1] ・② ・[3] ・[4] ) ・積雪荷重 建設省告示第1455号における区域 別表 ( )			
4. 電気保安技術者			
※適用する			
5. 施工条件			
下記以外は現場説明書による。 ・工事用車両の駐車場所 ※図示 ・ ・資機材置場 ※図示 ・ ・建設発生土仮置場 ※図示 ・ ・ ※図示 ・			
6. 発生材の処理等			
※現場説明書による ・構外搬出適切処理 ・			
7. 環境への配慮			
(1.4.1) (1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の(1)から(4)を満たすものとする。 (1) 合板、木質系フローリング、構造用パネ、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ウリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びビスチレンを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 (2) 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 (3) 接着剤は、可塑性(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含まない難揮発性の可塑性を除く)が添加されていない材料を使用する。 (4) (1)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びビスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 (2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の(1)又は(2)に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の(3)又は(4)に該当する材料を指す。 (1) 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 (2) 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 (3) 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 (4) 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料			
8. 材料の品質等			
(1.4.2) (1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 (2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承認を受ける。 (3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。 (4) 本工事に使用する材料のうち、(5)に指定する材料の製造業者等は、次の(1)から(6)の事項を満たすものとし、その証明となる資料(外部機関【(一社)公共建築協会が発行する「建築材料・設備機材等品質評価事業」】の評価書の写し等)を監督職員に提出して承認を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承認を受けた場合はこの限りでない。 (1) 品質及び性能に関する試験データを整備していること。 (2) 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 (3) 安定的な供給が可能であること。 (4) 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 (5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 (6) 販売、保守等の営業体制を整えていること。 (5) 製造業者等に関する資料の提出を求める材料 床型枠用鋼製デッキプレート、鉄骨柱下無収縮モルタル、無収縮グラウト材、押出し成形セメント板、成形伸縮目地材、乾式保護材、陶磁器質タイル、既調合モルタル、既調合目地材、ルーフレン、吸水調整材、アルミニウム製建具、樹脂製建具、鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス製建具、錠前類、クローザ類、自動扉機構、自閉式上吊り引戸機構、重量シャッター、軽量シャッター、オーバーヘッドドア、ガラス、防水剤、現場発泡断熱材、フリースアクセスフロア、可動間仕切、移動間仕切、トイレープス、煙突用成形ライニング材、天井点検口、床点検口、グレーチング、屋上緑化システム、トップライト、エポキシ樹脂、外装タイル張り用有機系接着剤、ポリマーセメントモルタル、			
9. 技能士			
適用工事種目		技能検定作業 (1.5.2)	
仮設工事 ○とび作業			
鉄筋工事 ・鉄筋組立て作業			
コンクリート工事 ・型枠工事作業 ・コンクリート圧送工事作業			
鉄骨工事 ○構造物鉄作業 ・とび作業			
コンクリートブロック ・ALCパネル ○コンクリートブロック工事作業			
・ALCパネル ・エーエルシーパネル工事作業			
・飛出成形セメント板工事			
防水工事 ・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業			
・アクリルゴム系塗膜防水工事作業			
・合成ゴムシート防水工事作業			
・塩化ビニルシート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業			
○シーリング防水工事作業			
・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業			
・FRP防水工事作業			
石工事 ・石張り作業			
タイル工事 ・タイル張り作業			
木工事 ・大工工事作業			
屋根及びびとい工事 ○内外装板金作業 ・スレート工事作業			
金属工事 ○鋼製下地工事作業 ・内外装板金作業			
左官工事 ・左官作業			
建具工事 ○ビル用サッシ施工作業 ・ガラス工事作業			
・自動ドア施工作業			
カーテンウォール工事 ・金属製カーテンウォール工事作業 ・ビル用サッシ施工作業			
・ガラス工事作業			
塗装工事 ○建築塗装作業			
内装工事 ・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業			
・ボード仕上げ工事作業 ・壁装作業			
排水工事 ・建築配管作業			
舗装工事 ・溶融ペイントハンドマーカー工事作業			
・加熱ペイントマシンマーカー工事作業			
積載工事 ・造園工事作業			
10. 化学物質の濃度測定 (1.5.9)			
(1) 屋内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、ステレンの濃度を測定し、測定結果を監督員に報告する。 (2) 測定対象室及び測定箇所は仕上げ表による。 (3) 測定は、パッシブ型採取機器により行う。 (4) 測定方法及び測定結果の報告は、現場説明書による。			
11. 完成時の提出図書 (1.7.1~3) (表1.7.1)			
※完成図書 提出部数 ※(A3版 原因及び複写図(2部)) ・部			
CADデータ ※提出する ・提出しない			
※保全に関する資料 提出部数 ※2部 ・部			
12. 完成写真			
工事完成時に次の写真を撮影し、監督職員に提出する。			
分類・規格 撮影箇所数 提出部数 画像数・画質等			
・カラー ※キャビネ板 外部 ( ) 内部 ( ) ※2 ・部 ※500万画素以上			
・ 外観正面 ※1 ・部 ※5 ・部			
・ カラー四切木製パネル 外部 ( ) 内部 ( ) ※2 ・部			
・ カラー半切木製パネル 外部 ( ) 内部 ( ) ※2 ・部			
・ 電子データ 外部 ( ) 内部 ( ) ※2 ・部 ※500万画素以上			
電子データは、RGB(フルカラー)、JPEG形最高画像とし、0D-Rにて提出する。 ・ 建築写真の撮影実績があるもので、監督職員が承諾する撮影業者 ・ 任意			
13. 他工事又は他工種との取合い			
工事区分表による。これにより難しい場合は監督職員と協議する。			
14. 設計G L ※図示 ・ ( )			
15. 足場その他 (2.2.4)			
・ 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。			
16. 監督職員事務所 (2.3.1)			
※設ける ・設けない 規模及び仕上げの程度は現場説明書による。			
17. 工事用水			
構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる (※有償 ・無償)			
18. 工事用電力			
構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる (※有償 ・無償)			
19. 埋戻し及び盛土 (3.2.3)			
埋戻し及び盛土の種類 ・ A種 適用場所 ( ) ・ B種 適用場所 ( ) ・ C種 適用場所 ( ) 土質 ( ) 受渡場所 ( ) ・ D種 適用場所 ( )			
20. 建設発生土の処理 (3.2.5)			
・ 構外搬出適切処理 ・ 構内指定場所に堆積 ・ 構内指定場所に敷均し			
21. 山留めの存置 (3.3.3)			
存置範囲 (※図示 ・ )			
22. 4 地業工事			
1. 支持地盤			
・ 杭基礎 (4.3.4.5) (4.5.4.5) 支持地盤の位置及び種類 (基礎ぐいの先端位置含む) ・ 図示による ( ) ・			
・ 直接基礎 支持地盤の位置及び種類 (基礎底部の位置含む) ・ 図示による ( ) ・ 試験掘り (根切り底の状態の確認等) ・ 行わない ・ 行う 位置等 ・ 図示による ( ) ・			
・ 杭の載荷試験 (4.2.3) 試験の位置、方法等 ・ 図示による ( ) ・			
・ 地盤の載荷試験 (4.2.4) 試験の位置、方法等 ・ 図示による ( ) ・			
2. 既製コンクリート杭地業 (4.3.2)			
種類 ・ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭) ・ プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭) ・ 外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC杭) SC杭の鋼管材料 ・ SKK400 ・ SKK490 ・			
寸法、継手、性能等 (種別：種類、性能及び曲げ強度区分) (4.2.2) (4.3.2) (4.3.3)			
種類 コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> ) 杭径 (mm) 厚さ (mm) 杭長 (mm) 握手数 セット数 長期設計支持力 (kN/本) 備考			
試験杭 上杭 中杭 下杭			
本杭 上杭 中杭 下杭			
杭先端部形状 (4.3.2) ・ 開放形 ・ 半開放形 ・ 閉そく形 ・			
施工方法 (4.3.3~5) ・ 打込み工法 ( ・ 油圧ハンマー ・ ディーゼルハンマー ・ ) プレボーリングの併用 ・ 行わない ・ 行う 掘削深さ及び径 ・ 図示による ( ) ・			
杭の精度 水平方向の位置ずれ 試験杭 (4.2.2) (4.3.3) 試験杭の位置 ・ 図示による ( ) ・ 打込杭の推定支持力の算定方法 ・ 図示による ( ) ・			
・ セメントミルク工法 (4.2.2) (4.3.4) アースオーガの支持地盤への掘削深さ ・ 杭の支持地盤への掘入れ深さ ・ 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・			
試験杭 試験杭の位置 ・ 図示による ( ) ・			
・ 特定埋込杭工法 (4.2.2) (4.3.5) ・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で $\alpha=250$ を採用できる工法 ・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ が以下の値を採用できる工法 $\alpha=( )$ 、 $\beta=( )$ 、 $\gamma=( )$ 工法 ・ プレボーリング拡大根固め工法 ・ 中掘り拡大根固め工法 ・			
杭の精度 (4.3.5) 水平方向の位置ずれ ・ 試験杭 試験杭の位置 ・ 図示による ( ) ・ (4.3.2) (4.3.6) (7.2.5)			
杭継手工法 (4.3.2) (4.3.6) (7.2.5) ・ アーク溶接継手 溶接材料 ・ 標準仕様書7.2.6(6)による ・ 図示による ( ) ・ 無溶接継手 (継手に接続金具を用いた方式のもの) 工法 ・ 審査 (評定等) を受けた工法 ・ 検査 ・ 審査 (評定等) により定められた項目 ・ 施工 ・ 審査 (評定等) された施工管理基準による ・			
杭頭処理 (4.3.7) ・ 処理しない ・ 処理する 処理方法 (切断に伴う補強方法含む) ・ 図示による ( ) ・ (4.3.7)			
杭頭の中詰め材料 ・			
工事名 阿南郡 阿南町 一の堰 操作室改修工事(省い手掘削型)(連手掘削型)			
路線名等 一の堰地区			
工事箇所 阿南市宝田町			
図面名 ゲート操作室建築工事特記仕様書(1/9)			
縮尺 - 図面番号 2			
会社名			
事業者名 徳島県南部総合県民局農林水産部 (阿南)			

3 鋼杭地業 (4.4.2)

・SKK400 ・SKK490 (4.2.2) (4.4.2)

寸法、継手等 (4.2.2) (4.4.2)

種類	杭径 (mm)	板厚 (mm)	杭長 (mm)	継手数	セツト数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭							
本杭							

杭先端部形状 (4.4.2)

・開放形 ・半開放形 ・閉そく形

先端部の補強 (4.4.2)

・標準仕様書 図4.4.1, 表4.4.2による

先端部の補強 (補強バンド等) 及びその他付属品の材質

施工方法 (4.4.1)

・打込み工法 (・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー ) (4.2.2) (4.4.3)

プレローリングの併用

・行わない

・行う

掘削深さ及び径

・図示による ( )

杭の精度

・水平方向の位置ずれ

・杭径の1/4かつ100mm以下

試験杭

試験杭の位置

・図示による ( )

打込杭推定支持力の算定

・図示による ( )

・特定埋込杭工法 (4.4.4)

・平13国交令第1113号第6による地盤の許容支持力式で $\alpha=250$ を採用できる工法

・平13国交令第1113号第6による地盤の許容支持力式の内 $\alpha$ ,  $\beta$ ,  $\gamma$ が下記の値を採用できる工法

$\alpha = ( )$ ,  $\beta = ( )$ ,  $\gamma = ( )$

工法

・中掘り拡大根固め工法

杭の精度 (4.4.3)

・水平方向の位置ずれ

・杭径の1/4かつ100mm以下

試験杭

試験杭の位置

・図示による ( )

杭の現場継手 (4.4.5)

・溶接継手

形状

・JIS A 5525iによる

溶接材料

・標仕 7.2.5(a) (b)による

・図示による ( )

・無溶接継手 (継手部に接続金具を用いた方式のもの)

工法

※審査 (評定又は大臣認定) を受けた工法

検査

※審査 (評定又は大臣認定) により定められた項目

施工

※審査 (評定又は大臣認定) された施工管理基準による

杭頭の処理 (4.3.7) (4.4.6)

・処理しない

・処理する

処理方法 (切断ともなう補強方法含む)

・図示による ( )

杭頭の中詰め材料 (4.3.7) (4.4.6)

掘削工法 (4.5.1) (4.5.4)

・アースドリル工法 (安定液 ※使用する ・使用しない)

・リバース工法

・オールケーシング工法 (孔内の水張り ・行う ・行わない)

併用する工法 (4.5.1) (4.5.5)

・場所打ち鋼管コンクリート杭工法

・拡底杭工法 (安定液 ・使用する ・使用しない)

寸法等 (4.2.2)

	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (mm)	セツト数	長期設計支持力 (kN/本)	備考
試験杭						
本杭						

鉄筋の種類 (4.5.3)

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
・SD295A		
・SD345		

帯筋 (4.5.3)

・図示による ( )

鉄筋かごの補強 (4.5.3)

・杭径1.5m以下の場合には鋼板6×50(mm), 1.5mを超える場合は鋼板9×50~75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する。溶接長さは、補強材の幅とする。

鉄筋の最小かぶり厚さ (4.5.3)

鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ (4.5.3~4.5.5)

・図示による ( )

セメントの種類 (4.5.3)

・高炉セメントB種

コンクリートの種別 (4.5.3)

・A種 ・B種

コンクリートの設計基準強度 (Fc) (4.5.3)

・図示による ( )

構造体強度補正值 (S) (4.5.3)

・3N/mm

・図示による ( )

・審査 (評定又は大臣認定) された内容による

試験杭 (4.2.2) (4.5.4) (4.5.5)

試験杭の位置

・図示による ( )

孔壁測定 (4.5.4) (4.5.5)

測定箇所

・試験杭 ( ) 箇所及び本杭 ( ) 箇所

杭の精度 (4.5.4) (4.5.5)

水平方向の位置ずれ

5 砂利地業 (4.6.2)

材料

・再生クラッシュチャラ ( ) ・切込砂利及び切込砕石

砂利厚さ (4.6.3)

※60mm

・50

適用箇所

・基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下

・図示による ( )

6 捨コンクリート地業 (4.6.4)

捨コンクリートの厚さ (4.6.4) (6.14.1)

※50mm

施工範囲 (4.6.4) (6.14.1)

・基礎梁下、土に接するスラブ下

・図示による ( )

設計基準強度 (4.6.4) (6.14.1)

※18N/mm

スラブ (4.6.4) (6.14.1)

※15cm又は18cm

7 床下防湿層 (4.6.2)

材料 (4.6.2)

・ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上

施工範囲 (4.6.5)

・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下

5 鉄筋工事

1 鉄筋 (5.2.1)

鉄筋の種類

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
・SD295A		
・SD345		

2 溶接鋼 (5.2.2)

形状等

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位
・溶接鋼			
・鉄筋格子			

3 鉄筋の継手 (5.3.4) (5.5.2) (5.5.3)

部位	継手方法	呼び径 (mm)
柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手	
耐力壁の鉄筋	・重ね継手	
その他の鉄筋	・重ね継手	

耐力壁の重ね継手の長さ (5.3.4)

・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3.1(a)(2))

・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3.1(a)(3))

継手位置図 (5.3.4)

・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 5.1, 6.1, 7.1, 7.3, 8.1)

4 鉄筋の定着長さ (5.3.4)

鉄筋の定着長さ (5.3.4)

・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 3.1(b))

4 場所打ちコンクリート杭地業

場所打ちコンクリート杭地業

5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網含む) (5.3.5)

最小かぶり厚さ (5.3.5)

・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 表4.1)

柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無

・無し

・有り 適用箇所 ( )

主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する

軽量コンクリートで土に接する部分

・無し

・有り 適用箇所 ( )

最小かぶり厚さに加える厚さ ( ) mm

耐久性上不利な部分 (塩害等を受けるおそれのある部分等)

・無し

・有り 適用箇所 ( )

最小かぶり厚さに加える厚さ ( ) mm

鉄筋相互のあき (機械式継手及び溶接継手を除く) (5.3.5)

・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4.1)

6 機械式継手 (5.5.2)

使用箇所 (5.5.2)

・図示による ( )

H12建告第1463号に適合する性能

機械式継手の種類及び工法 ( ) (5.5.2)

鉄筋相互のあき (5.3.5)

・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4.1)

品質の確認方法 (5.5.2)

・図示による ( )

不良となった継手の修正方法等 (5.5.2)

・図示による ( )

7 溶接継手 (5.5.3)

使用箇所 (5.5.3)

・図示による ( )

H12建告第1463号に適合する性能

鉄筋相互のあき (5.3.5)

・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) 4.1)

継手の工法 (5.5.3)

・図示による ( )

品質の確認方法 (5.5.3)

・図示による ( )

不良となった継手の修正方法等 (5.5.3)

・図示による ( )

8 各部配筋 (5.3.7)

各部配筋 (5.3.7)

・図示による (構造関係共通図 (配筋標準図) )

9 圧接完了後の試験 (5.4.9)

抜取試験 (5.4.9)

・超音波探傷試験

・引張試験

6 コンクリート工事

1 コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度 (6.2.1~4)

種類	設計基準強度 (N/mm)	スラブ	適用箇所
・普通コンクリート			
・24			

・軽量コンクリート (6.2.1~3) (6.10.1, 2)

種類	設計基準強度 (N/mm)	スラブ	適用箇所
・普通コンクリート			
・24			

2 コンクリートの類別 (6.2.1)

類別 (6.2.1)

※ [1] 類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)

・ [2] 類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)

3 セメント (6.3.1)

種類 (6.3.1)

※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 使用部位 ( )

・高炉セメントB種 ( ) 使用部位 ( )

・フライアッシュセメントB種 ( ) 使用部位 ( )

4 骨材 (6.3.1)

アルカリシリカ反応性による区分 (6.3.1)

※A ・B

5 混和材料 (6.3.1)

・混和剤 (6.3.1)

混和剤の種類

※標準仕様書6.3.1(d)(i)による

・混和材 (6.3.1)

混和材の種類

※標準仕様書6.3.1(d)(ii)による

6 気乾単位容積質量 (6.2.3)

・普通コンクリート (6.2.3)

・2.3t/m<sup>3</sup>程度

・軽量コンクリート (6.10.1)

7 軽量コンクリート (6.10.1)

種類 (6.10.1)

・1種 ・2種

適用箇所 (6.10.1)

・図示による ( )

8 寒中コンクリート (6.11.1)

適用期間 (6.11.1)

・図示による ( )

・積算温度を基に定める場合 (6.11.2)

・図示による ( )

9 暑中コンクリート (6.12.2)

構造体強度補正值 (S) (6.12.2)

※6N/mm

10 マスコンクリート (6.2.1) (6.13.1)

適用箇所 (6.2.1) (6.13.1)

・図示による ( )

セメントの種類 (6.13.2)

・中熱ポルトランドセメント

・低熱ポルトランドセメント

・高炉セメントB種 ( )

・フライアッシュセメントB種

・普通ポルトランドセメント

混和材料 (6.13.2)

・混和剤

混和剤の種類

※JIS A 6204に適合するAE減水剤または高性能AE減水剤

スラブ (6.13.2)

※15cm

11 無筋コンクリート (6.14.1)

設計基準強度 (6.14.1)

※18 (N/mm)

スラブ (6.14.1)

※15cm 又は 18cm

セメントの種類 (6.2.1) (6.14.1)

※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種

・高炉セメントB種 ( )

・フライアッシュセメントB種 ( )

適用箇所 (6.2.1) (6.14.1)

※標準仕様書6.14.1(e)による箇所

・図示による ( )

12 流動化コンクリート (6.2.1) (6.15.1)

適用箇所 (6.2.1) (6.15.1)

・図示による ( )

13 ひび割れ誘発目地打継目地 (6.6.3) (6.8.2) (9.7.3)

目地寸法 (6.6.3) (6.8.2) (9.7.3)

・標準仕様書9.7.3による

間隔、位置、形状 (6.8.2)

・図示による ( )

14 コンクリートの仕上り (6.2.5) (6.8.3)

種別	適用箇所
・A種	
・B種	
・C種	

15 打増し厚さ (打放し仕上げ部) (6.8.2)

打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る) (6.8.2)

打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る)

16 型枠 (6.8.3)

せき板の材料及び厚さ (6.8.3)

・合板 (※12mm) ( )

・断熱材の兼用した型枠材の使用 (6.8.3)

・MCR工法用シート (6.8.3)

打増し厚さ

・20mm

打増し範囲

・図示による ( )

スリーブの材質 (6.8.3)

※標準仕様書6.8.3(i)(2)(i)から(iv)による

工事名	60阿群 耐震対策 一の専 操作室改修工事(古い手種模型) (着手日指定型)		
路線名等	一の塚地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室建築工事特記仕様書(2/9)		
縮尺	-	図面番号	3
会社名			
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部 (阿南)		

Table with 2 columns: Item No. and Description. Includes items like ① 鉄骨製作工場, ② 施工管理技術者, ③ 鋼材, ④ 高力ボルト, ⑤ 普通ボルト, ⑥ 溶融亜鉛めっき高力ボルト, ⑦ アンカーボルト, ⑧ 溶接材料, ⑨ ターンバックル, 10 デッキプレート. Each item has associated specifications and standards.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Includes items like 11 レール及びその付属品, ⑩ 柱底均しモルタル, ⑬ 製作精度, 14 鉄骨の仮組, 15 溶接技能者の技量付加試験の要領, ⑭ 溶接接合, 18 錆止め塗装, 19 耐火被覆, ⑯ アンカーボルト等の設置, ⑰ 軽量形鋼構造. Each item has associated specifications and standards.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Includes items like ⑧ 1 補強コンクリートブロック造, 2 コンクリートブロック 帳壁及び塀, ③ ALCパネル, 4 押出成形セメント板 (ECP). Each item has detailed technical specifications, material requirements, and performance criteria.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Includes items like 1 アスファルト防水, 2 改質アスファルトシート防水. Each item includes detailed waterproofing specifications, material types, and application methods.

Project information table with columns: 工事名, 路線名等, 工事箇所, 図面名, 縮尺, 会社名, 事業者名. Contains specific project details for the gate operation building construction.

⑨ 防水工事 八続き

3 合成高分子系ルーフィングシート防水 (9.4.2~4) (表9.4.1~3)

種別	施工箇所	絶縁用シートの材質	断熱材	仕上塗料		高日射反射率防水の適用
				種類	使用量	
・S-F1				・製造所の指定による	・製造所の指定による	
・S-F2				・製造所の指定による	・製造所の指定による	
・S-M1				・製造所の指定による	・製造所の指定による	
・S-M2				・製造所の指定による	・製造所の指定による	
・S-M3				・製造所の指定による	・製造所の指定による	
・S1-F1			(材質) ※下記に示すもののほか、JIS A 9521 (建築用断熱材) によるポリエチレンフォーム保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの又はJIS A 9511 (発泡プラスチック保温材) による種ポリエチレンフォーム保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの	・製造所の指定による	・製造所の指定による	
・S1-F2				・製造所の指定による	・製造所の指定による	
・S1-M1			(材質) ※JIS A 9521 (建築用断熱材) による硬質ウレタンフォーム断熱材種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に合格するものJIS A9521 (建築用断熱材) による押出法ポリスチレンフォーム断熱材の1種b、2種b又は3種b、JIS A9511 (発泡プラスチック保温材) によるA種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの、JIS A 9511 (発泡プラスチック保温材) によるA種押出法ポリスチレンフォーム保温材の保温板	・製造所の指定による	・製造所の指定による	
・S1-M2			※発泡ポリエチレンシート	・製造所の指定による	・製造所の指定による	

屋内防水層の種類

種別	施工箇所	保護層	
		平場のモルタル塗り	立上り部の保護モルタル塗り厚さ
・S-C1		・床塗り工法 ※標準仕様書 15.2.5(b) (2) 及び (3) に準ずる	※標準仕様書 15.2.5(c) (1) に準ずる

屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ

A L C パネル下地の場合機械的固定工法は適用しないルーフィングシートの種類及び厚さ  
※標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による

固定金具の材質及び形状  
材質 ※防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの

厚さ (mm) ※0.4以上

防水下地がP Cコンクリート部材下地の場合の処理  
目地処理 ※図示  
入隅部の増張り (S-F1, S1-F1, S-C1の場合) ※図示

防水下地がA L Cパネル下地の場合の処理  
目地処理 ※図示  
入隅部の増張り (S-C1の場合) ※図示

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け  
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法  
※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1.15・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)  
・適用しない

保護層の施工 (屋内保護密着工法の場合)  
※図示

4 塗膜防水 (9.5.3) (表9.5.1, 2)

種別	施工箇所	仕上塗料		保護層	高日射反射率防水の適用
		種類	使用量		
・X-1		・製造所の指定による	・製造所の指定による		
・X-2		・製造所の指定による	・製造所の指定による		
・Y-1	※地下外壁防水				
・Y-2	※屋内防水			・適用する ・適用しない	

5 ケイ酸質系塗布膜防水 (9.6.1.3) (表9.6.1.2)

種別	施工箇所	種類	施工箇所
※C-U1			・C-LUP

6 脱気装置 (9.2.3) (9.3.3) (9.5.3)

防水種別	種類	設置数量
D-1 D-2 D-3 D-4	※アスファルトルーフィング製製造所の仕様による	※アスファルトルーフィング製製造所の仕様による
D1-1 D1-2 AS-T3		
AS-T4 AS-J1		
ASI-T1 ASI-J1		
X-1	・防水層の主材料の製造所の仕様による	・防水層の主材料の製造所の仕様による

⑩ シーリング (9.7.2) (表9.7.1)

下表以外は、標準仕様書表9.7.1による  
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類 (記号)
ALC面	PU-2
建具廻り	PU-2

シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a) (1)~(3)による

10 石工事 (10.1.3.5)

1 施工

石材の割付け ※標準仕様書10.1.3(a) (1), (2)による  
粗面仕上げの場合のみ込み部分の仕上げ  
屋内の床を本磨きとする場合のワックスがけ  
・行う (適用箇所) ・全て  
・行わない

2 石材等 (10.2.1.3) (表10.2.1.2)

天然石	施工箇所	品質	石材の種類	形状	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面仕上げ	備考
		・1等品 ・2等品		※正方形に近い矩形				

テラズブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	形状	仕上げ面	寸法 (mm)	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラズタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ (mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5~12	・300型 ・400型		

取り付用モルタル、既調合の目地モルタル、石表面処理材、裏打ち処理材  
※石材施工業者の指定する製品

3 外壁湿式工法 (10.2.2.3) (10.3.2.3)

受金物 材質 ※SS400  
形状及び寸法  
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ=100mm  
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ=150mm

石裏面処理  
裏打ち処理  
下地ごしらえ

・適用する  
・適用しない  
・適用する  
・適用しない  
・適用する  
・適用しない

・流し防工法  
・あと施工アンカー工法  
・あと施工アンカー・横筋流し工法

ドレンパイプの材質  
・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25~35φ

アンカーの材質及び径 ※SS400 M12  
あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )  
目地 一般目地 目地幅 (mm) ※6以上  
シーリング材 目地幅 (mm) ※6以上  
シーリング材 目地幅 (mm) ※6以上  
シーリング材 目地幅 (mm) ※6以上  
シーリング材 目地幅 (mm) ※6以上

伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書表11.1.1による  
シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a) (3)による

4 内壁空積工法 (10.2.2) (10.4.2.3)

受金物 材質 ※SS400  
形状及び寸法  
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ=100mm  
・L-75×75×6(mm)の加工 長さ=150mm

石裏面処理  
裏打ち処理  
下地ごしらえ

・適用する  
・適用しない  
・適用する  
・適用しない

・適用する  
・適用しない

・あと施工アンカー工法  
・あと施工アンカー・横筋流し工法

アンカーの材質及び径 ※SS400 M12  
あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )  
目地 一般目地 目地幅 (mm) ※6以上  
シーリング材 目地幅 (mm) ※6以上  
シーリング材 目地幅 (mm) ※6以上  
シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a) (3)による

伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書表11.1.1による  
シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(a) (3)による

5 乾式工法 (10.2.2) (10.5.2.3) (表10.2.4)

取付け方式  
取付け金物  
引金物、だば、かすがい及び受金物  
吊金物及び化粧りボルト  
・設ける 吊金物  
・設けない 吊りボルト

・スライド方式  
・ロッキング方式  
・適用する  
・適用しない  
・適用する  
・適用しない

・適用する (※標準仕様書10.5.2(b) (1)による) ・図示

外壁の工法  
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法  
※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1・1.15・1.3) 倍の風圧力に対応した工法)  
・適用しない

アンカーの材質及び径 ※ステンレス (SUS 304) M10  
あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )  
目地 一般目地 目地幅 (mm) ※8以上  
シーリング材 目地幅 (mm) ※8以上  
シーリング材 目地幅 (mm) ※8以上

6 床及び階段の石張り (10.6.2.3)

床石張りの裏面処理  
階段張りの裏面処理  
目地 一般目地  
伸縮調整目地

・適用する  
・適用しない  
・適用する  
・適用しない  
・適用する  
・適用しない

目地幅 (mm) ※8以上  
目地幅 (mm) ※8以上  
目地幅 (mm) ※8以上

位置 ※床面積30m<sup>2</sup>程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと及び他部材との取り合い部  
・図示

7 アーチ 上げ裏等の石張り (10.2.2) (10.7.1.2)

取付け工法  
取付け金物  
引金物、だば、かすがい及び受金物  
吊金物及び化粧りボルト  
・設ける 吊金物  
・設けない 吊りボルト

・内壁空積工法  
・乾式工法  
※標準仕様書10.2.2(c)による  
※標準仕様書10.2.2(a)による

・適用する (※標準仕様書10.2.2(a)による) ・図示

・適用する (SUS 304) 径6mm長さ80mm (加工物)  
・ステンレス (SUS 304) M10化粧ナット付き

8 笠木、甲板等の石張り (10.2.2) (10.7.1.3)

取付け工法  
取付け金物  
引金物、だば、かすがい及び受金物  
石裏面処理  
乾式工法の場合の取付け代  
石裏の補強用モルタル  
アンカーの材質及び径  
あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )

・外壁湿式工法  
・乾式工法  
※標準仕様書10.2.2(c)による  
※標準仕様書10.2.2(a)による

・適用する  
・適用しない  
・適用する  
・適用しない

・適用する (※標準仕様書10.5.3(b)による) ・図示

・適用する (SUS 304) M10  
あと施工アンカーの材質及び寸法 ( )

11 タイル工事 (11.1.3) (表11.1.1)

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 (11.2.2.3.7)

2 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り

位置 ※標準仕様書表11.1.1による  
・図示

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法 (mm)	再生材の適用	吸水率による区分		うわぐすり	役物	色	耐凍害性		耐汚損性	備考
			Ⅰ種	Ⅱ種				有	無		

標準的な曲がりの役物は一体成形とする  
試験張り ・行う ・行わない  
見本焼き ・行う ・行わない  
モルタル塗りのコンクリート素地面の処理  
・MCR工法  
・目荒し工法 (高圧洗浄)

壁タイル張りの工法  
外装タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り  
内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り  
・既製調合モルタル  
モルタル下地としたタイル工事使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。  
・既製調合目地材

3 接着剤による陶磁器質タイル張り (11.3.2~4.7)

位置 ※標準仕様書表11.1.1による  
・図示

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法 (mm)	再生材の適用	吸水率による区分		うわぐすり	役物	色	耐凍害性		耐汚損性	備考
			Ⅰ種	Ⅱ種				有	無		

標準的な曲がりの役物は一体成形とする  
試験張り ・行う ・行わない  
見本焼き ・行う ・行わない  
接着剤のホルムアルデヒド放散量  
※規制対象外  
外装壁タイル接着剤張りにおける目地のシーリング材  
打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材  
ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材  
伸縮調整目地 ※変成シリコン系シーリング材  
その他の目地 ※変成シリコン系シーリング材  
モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理  
・MCR工法  
・目荒し工法 (高圧洗浄)

4 陶磁器質タイル型枠先付け (11.4.2.3) (表11.4.1)

位置 ※標準仕様書表11.1.1による  
・図示

タイルの形状、寸法等

施工箇所	形状寸法 (mm)	再生材の適用	吸水率による区分		うわぐすり	役物	色	耐凍害性		耐汚損性	備考
			Ⅰ種	Ⅱ種				有	無		

標準的な曲がりの役物は一体成形とする  
試験張り ・行う ・行わない  
見本焼き ・行う ・行わない

タイル型枠先付けの種類

種別	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板の種類
・タイルシート法	・小口タイル	・標準仕様書6.8.3(b) (2)
・目地挿法	・二丁掛タイル	・金属製タイル先付け用パネル
・積木法	・大形タイル	

工事名	阿南町 阿南第一の堰 操作室改修工事(仮手掘型) (着手日指定型)		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室建築工事特記仕様書(4/9)		
縮尺	-	図面番号	5
会社名			
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部 (阿南)		

12 木工事
1 表面仕上げ (12.1.4)
2 製材 (12.2.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1)
3 造作用集成材 (12.2.1)
4 造作用単板積層材 (12.2.1)

5 床張り用合板等 (12.2.1)
6 接着剤 (12.2.2.3)
7 防蟻・防蟻処理 (12.3.1.2)
13 屋根及び土工事
1 長尺金属板葺 (13.2.2.3)
2 折板葺 (13.2.2) (13.3.2.3) (表13.2.1)

3 粘土瓦葺 (13.4.2.3)
4 とい (13.5.2.3) (表13.5.5)
4 金属工
1 ステンレスの表面仕上げ (14.2.1)
2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理 (14.2.2) (表14.2.1)
3 鉄鋼の垂鉛めっき (14.2.3) (表14.2.2)
4 軽量鉄骨天井下地 (14.4.2~4) (表14.4.1)
5 軽量鉄骨壁下地 (14.5.3) (表14.5.1)

6 金属成形板張り (14.6.2.3) (表14.2.1)
7 アルミニウム製笠木 (14.7.2.3) (表14.2.1) (表14.7.1)
8 手すり及びタラップ (14.8.2.3)
5 左官工事
1 モルタル塗り (15.2.2.5)
2 床コンクリート直均し仕上げ (6.2.5) (15.3.2)
3 セルフレベリング材塗り (15.4.2) (表15.4.1)
4 仕上げ塗材仕上げ (15.5.2) (表15.5.1)
5 ALCパネルの場合の地下処理 (15.5.4)
6 マスチック塗材塗り (15.6.2)
7 ロックウール吹付け (15.8.2)

工事名 阿南部 阿南部 一の道 操作室改修工事(手摺設置型) (手摺設置型)
路線名等 一の塚地区
工事箇所 阿南市宝田町
図面名 ゲート操作室建築工事特記仕様書(5/9)
縮尺 図面番号 6
会社名
事業者名 徳島県南部総合県民局農林水産部(阿南)

16 建具工事	1 防火戸 (16.1.3)	※建具表による		
	② 見本の製作等 (16.1.4)	建具見本の製作 ・ 行う (建具符号: ) ・ 行わない 建具見本の程度 ・ 工事に使用するものとして、あらかじめ製作する ・ 納まり等が分かる程度のもの 特殊な建具の仮組 ・ 行う (建具符号: ) ・ 行わない		
3 防犯建物部品 (16.1.6)	・ 適用する (適用箇所は建具表による )	・ 適用しない		
	④ アルミニウム製建具 (16.2.2.4.5) (表14.2.1)	性能等級 外部に面する建具 ・ A種 (建具符号: ※建具表による ) ・ B種 (建具符号: ※建具表による ) ・ C種 (建具符号: ※建具表による ) ・ 防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) ・ 断熱ドアセット・断熱サッシ 断熱性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) ・ 耐震ドアセット 面内変形追従性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) 枠の見込み寸法 ・ 建具表による 表面処理 外部に面する建具 ・ BB-1種 ○BB-2種 皮膜等の種類 (※標準仕様書表14.2.1による ) 着色 (・アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー) 屋内の建具 皮膜等の種類 (※標準仕様書表14.2.1による ) 着色 (・アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー) 結露水の処理方法 ※図示 水切り板、ぜん板 ※図示		
⑤ 網戸等 (16.2.3)	種類	材 種	線 径	網 目
	○防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ステンレス (SUS 316) 製	※0.25mm以上	※16～18メッシュ
6 樹脂製建具 (16.3.2～5)	性能等級	外部に面する建具 ・ A種 (建具符号: ※建具表による ) ・ B種 (建具符号: ※建具表による ) ・ C種 (建具符号: ※建具表による ) ・ 防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級 (・T-1 ・ T-2) (建具符号: ※建具表による ) ・ 断熱ドアセット・断熱サッシ 断熱性の等級 (・H-4 ・ H-5 ・ H-6) (建具符号: ※建具表による ) 枠の見込み寸法 ・ 建具表による 表面色 ※標準色 ・ 特注色 水切り板、ぜん板 ※図示 ガラス ※複層ガラス		
	7 鋼製建具 (16.2.2) (16.4.2～4) (表16.4.2)	性能等級 簡易気密型 ・ 適用する (建具符号: ※建具表による ) ・ 適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・ S-4 (建具符号: ※建具表による ) ・ S-5 (建具符号: ※建具表による ) ・ S-6 (建具符号: ※建具表による ) ・ 防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) ・ 断熱ドアセット・断熱サッシ 断熱性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) ・ 耐震ドアセット 面内変形追従性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) 鋼板 材料 めっき付着量 厚 さ ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ※Z12又はF12 ※標準仕様書 ・ JIS G 3317 (溶融亜鉛-5%アルミニウム合 金めっき鋼板及び鋼帯) ※Y08 ※標準仕様書表16.4.2による		
8 鋼製軽量建具 (16.2.2) (16.5.2～4)	性能等級 簡易気密型 ・ 適用する (建具符号: ※建具表による ) ・ 適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・ S-4 (建具符号: ※建具表による ) ・ S-5 (建具符号: ※建具表による ) ・ S-6 (建具符号: ※建具表による ) ・ 防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) ・ 断熱ドアセット・断熱サッシ 断熱性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) ・ 耐震ドアセット 面内変形追従性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) 鋼板 ※亜鉛めっき鋼板 ・ ビニル被覆鋼板 ・ カラー鋼板 鋼板の厚さ ※標準仕様書表16.5.1による 召合せ、縦小口包み板の材質 ※鋼板	性能等級 簡易気密型 ・ 適用する (建具符号: ※建具表による ) ・ 適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・ S-4 (建具符号: ※建具表による ) ・ S-5 (建具符号: ※建具表による ) ・ S-6 (建具符号: ※建具表による ) ・ 防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) ・ 断熱ドアセット・断熱サッシ 断熱性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) ・ 耐震ドアセット 面内変形追従性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) 鋼板 (屋外) ※SUS 430JIL, SUS 443J1, SUS 304 鋼板 (屋内) ※SUS 430, SUS 430JIL, SUS 443J1, SUS 304 表面仕上げ ※H.L. ・ 鏡面 ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・ 角出し曲げ		

9 ステンレス製建具 (16.2.2) (16.4.2) (16.6.2～4)	性能等級 簡易気密型 ・ 適用する (建具符号: ※建具表による ) ・ 適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 ・ S-4 (建具符号: ※建具表による ) ・ S-5 (建具符号: ※建具表による ) ・ S-6 (建具符号: ※建具表による ) ・ 防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) ・ 断熱ドアセット・断熱サッシ 断熱性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) ・ 耐震ドアセット 面内変形追従性の等級 ( ) (建具符号: ※建具表による ) 鋼板 (屋外) ※SUS 430JIL, SUS 443J1, SUS 304 鋼板 (屋内) ※SUS 430, SUS 430JIL, SUS 443J1, SUS 304 表面仕上げ ※H.L. ・ 鏡面 ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・ 角出し曲げ
10 木製建具 (16.7.2～4)	建具材の加工、組立時の含水率 ※B種 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ フラッシュ戸 表面材の合板の種類 合板の種類 樹種・規格等 備 考 ・ 普通合板 表面の樹種 生地、透明塗料塗り (※ラワン合板程度 ) 不透明塗料塗り (※しな合板程度 ) 板面の品質 ( ) 接着の程度 (・1類 ・ 2類) ・ 天然木化粧合板 樹種名 ( ) 接着の程度 (・1類 ・ 2類) ・ 特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 (・オーバーレイ ・ プリント ・ 塗装) 表面性能 ( ) タイプ 接着の程度 (・1類 ・ 2類) 表面材の厚さ ※表16.7.6による ・ かまち戸 かまち樹種 ( ) 鏡板樹種 ( ) 見込み寸法 ※36mm ・ 建具表による ・ ふすま 張りの種別 (・ [1]型 ・ [2]型) 上張り ・ 鳥の子 ・ 新高の子又はビニル紙程度 押入等の裏側は雲花紙程度 縁仕上 ・ 塗り縁 ・ 生地縁 (素地) ・ 生地縁 (ウレタンクレーヤー塗装) 見込み寸法 ※19.5mm ・ 建具表による ・ 戸ぶすま 見込み寸法 ※30mm ・ 建具表による ・ 紙張り障子 見込み寸法 ※30mm ・ 建具表による 枠、くつずりの材料 ・ 建具表による
⑪ 建具用金物 (16.8.2.3)	金物の種類・見え掛り部の材質等 ※標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による 樹脂製建具に使用する丁番 ※標準仕様書表16.8.3による 握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置 ○建具表による 錠前類 ○建具表による クローザ類 ○建具表による
⑫ 鍵 (16.8.4)	マスターキー ○製作する ・ 製作しない その他の鍵 ※各室3本1組 錠箱 ※有り ・ 無し
13 自動ドア開閉装置 (16.9.2.3)	自動ドア 性能 防 錆 センサーの種類 凍結防止 ・ SSLD-1 ※標準仕様書表16.9.1による ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2 ・ SWD-1 ※標準仕様書表16.9.2による ・ SWD-1 ・ 図示 性能 ※標準仕様書表16.10.1による
14 自閉式上吊り引戸装置 (16.10.3)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター 耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup> ・ 外壁用防火シャッター 耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup> ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 開閉機能による種類 ※上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z12又はF12
15 重量シャッター (16.11.2.3)	シャッターの種類 ・ 管理用シャッター 耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup> ・ 外壁用防火シャッター 耐風圧強度 ( ) N/m <sup>2</sup> ・ 屋内用防火シャッター ・ 防煙シャッター 開閉機能による種類 ※上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式 シャッターのシャッターケース ・ 設ける ・ 設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 ※Z12又はF12

⑬ 軽量シャッター (16.12.2～4)	開閉形式 ※手動式 ・ 上部電動式 (手動併用) 耐風圧強度 600 ) N/m <sup>2</sup> スラットの材質 ○JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 (※Z06又はF06 ) ・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっき付着量 (※AZ90 ) スラットの形状 ○インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形
17 オーバーヘッドドア (16.13.2.3)	セクション材料 耐風圧 開閉方式 収納形式 ガイドレールの材質 による区分 区分 (Pa) による区分 による区分 による区分 ※スチールタイプ ・ 125 ※バランス式 ・ スタンダード形 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ アルミニウムタイプ ・ 100 ・ チェーン式 ・ ローヘッド形 ・ ステンレス鋼板 ・ ファイバーグラス タイプ ・ 75 ・ 電動式 ・ ハイリフト形 ・ パーチカル形
⑭ ガラス (9.7) (16.14.2～4) (表16.14.1)	適用は以下によるほか、ガラスの種類・厚さは建具表による。 ・ 合わせガラス 品 種 構成種類 性 能 ・ フロート合わせガラス ・ フロート板合わせガラス ・ 熱線吸収、フロート板合わせガラス ・ [1]類 ・ 網入磨き合わせガラス ・ 網入磨き、フロート板合わせガラス ・ [2]-1類 ・ [2]-2類 ・ 網入磨き合わせガラス ・ 網入磨き、熱線吸収合わせガラス ・ [3]類 ・ 強化ガラス 材料板ガラスによる種類 種 類 性 能 ・ フロートガラス ・ フロート強化ガラス ・ 型板ガラス ・ 型板強化ガラス ・ 熱線吸収板ガラス 品 種 性 能 色 調 ・ 熱線吸収フロート板ガラス ・ 1種 ・ 2種 ・ ブルー ・ グレー ・ ブロンズ ・ 熱線吸収網入磨き板ガラス ・ 複層ガラス 品 類 断熱性 日射熱遮へい性 ・ 断熱複層ガラス ・ 1種 ・ 2種 ・ U1 ・ 2種 U2 ・ 3種 ・ U-3-1 ・ U-3-2 ・ 日射熱遮へい複層ガラス ・ 4種 E4 ・ 5種 E5 ・ 熱線反射ガラス 品 類 日射熱遮へい性 耐久性 ・ 熱線反射ガラス ・ 1種 A種 色調 (・ブルー ・ グレー) ・ 2種 ・ A種 ・ B種 ・ 高性能熱線反射ガラス 色調 (・ブロンズ ・ シルバー) ・ 3種 B種 反射被膜面 ・ 内面 ・ 外面 映像調整 ・ 行わない ・ 行う ・ 倍強度ガラス 材料板ガラスによる種類の名称 色 調 ・ フロート倍強度ガラス - ・ 熱線吸収倍強度ガラス ・ グレー ・ ブルー ・ ブロンズ ガラスの留め材及び溝の大きさ 建具の種類 ガラス留め材 ガラス溝の大きさ (mm) アルミニウム製 ○シーリング材 ・ ガスケット ※標準仕様書表16.14.1による ・ グレージングチャンネル形 ・ 図示 鋼製及び鋼製軽量 ○シーリング材 ※標準仕様書表16.14.1による ・ 図示 ステンレス製 ・ シーリング材 ※標準仕様書表16.14.1による ・ 図示 表面形状 呼び寸法 厚さ 色 調 目地幅 (mm) 伸縮調整 防火性能 クリア乳白 平積み 曲面積み 目地 (mm) ・ 125×125 80 ・ ・ ※8～15 外側 ※6m以下 ・ 160×160 95 ・ ・ ・ 15～25 ※15以下 ごとに ・ 200×200 95 ・ ・ ・ 内側 10～25 ・ 320×320 95 ・ ・ ・ ※6以上 図示 ・ 250×125 80 ・ ・ ・ ・ 320×160 95 ・ ・ ・ 曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。 壁用金属枠及び補強材 ・ 設ける (形状 ※図示 ) ・ 設けない カ骨 材質 ※ステンレス鋼 (SUS 304) 寸法 ※径5.5mm 形状 ※はしご形状複筋及び単筋 化粧目地モルタルの色 ( ) 金属製化粧カバー 材質 ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製 寸法 ※図示 形状 ※図示 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法) ・ 適用しない 目地部のカ骨の補強方法 ※ガラスブロック製造所の仕様による ・ 図示

17 カテンウォール工事 (17.1.3) (17.2.2) (17.3.2)	1 取付方法、性能等 取付方法 ・ 層間方式 ・ 柱、梁方式 ・ 方立方式 ・ スパンドレル方式 性能 耐震性能 水平方向 (kH) 垂直方向 (kV) 水密性 気密性 遮音性 断熱性 耐火性能 耐温度差性 (°C) ・ 1.0 ・ 0.5 ・ ・ ・ 耐火性能 ・ 30分 ・ 1時間 ・ 70 ・ 60 耐風圧性能 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法) ・ 適用しない 主要部材の耐風圧性能 (ガラスを除く) 支間距離 (h) 耐風圧性能 状 態 4m以下 ・ たわみ量が ±(1/150) × h かつ絶対量20mm以下であること 部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。 4mを超える ・ 層間変位追従性 建築物の構造種別 層間変位量 (h=支間距離) 変位後の状態 鉄骨造 ・ ±(1/200) × h以上 部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。 鉄筋コンクリート造 ・ ±(1/300) × h以上 シーリングは補修程度の損傷であること。 鉄骨鉄筋コンクリート造 シーリング材 下表以外は標準仕様書表9.7.11による 被着体の組合せ 記号 シーリング材の種類 主成分による区分 金属 ガラス 石、タイル ガラス ガラス カーテンウォール板間目地 ガラスの取付け 構造ガスケット ・ 適用する (施工箇所 ・ 図示 ) 材質 ・ クロロブレン系 ・ EPDM系 ・ シリコーン系 形状 ・ H型 ・ Y型 ・ C型 寸法 (mm) ガラス板厚 ( ) ・ 支持棒の厚さ ( ) ・ ウェブの寸法 ( ) ・ 適用しない 断熱材 種類 ( ) 厚さ (mm) ( ) 施工箇所 ・ 図示 耐火材料 施工部位 種 別 規格帯 ・ ファスナー部 ・ 取付けブラケット ・ パネル目地部 ・ 層間ふさぎ 性能の確認方法及び判定方法 ・ 行う ・ 行わない (資料による承諾) カーテンウォールの材料 (17.2.2.3.5) 材 料 規格等 表面処理 映像調整 ※アルミニウム製 ※標準仕様書表16.2.3による ・ A-1種 ・ A-2種 ・ 行う ・ 行わない 皮膜等の種類 (※標準仕様書表14.2.1による ) 着色 (・アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー) 製品及び取付位置の寸法許容差 ※標準仕様書表17.2.1～3による ガラス溝の寸法、形状 ※製作所の仕様による 3 PCカーテンウォール (17.3.2～5) カーテンウォールの材料 コンクリート ※標準仕様書表17.3.2(a) (i)～(iv)による 鉄筋 ※SD295A (・ D13 ・ D10) 補強鉄筋の径 (mm) ※3.2 ・ 4.0 ・ 5.0 ・ 6.0 配筋 ※図示 先付けの材料 ・ サッシ枠 ・ ゴンドラ用ガイドレール 表面仕上げ材 ・ 磁器質タイル ・ 石材 (・ 花こう岩 ・ 大理石 ) 構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 (mm) ・ h=1～2, W1及びW2±1 製品及び取付位置の寸法許容差 ※標準仕様書表17.3.1～2による 工 事 名 阿南町 阿南町 一の堰 操作室改修工事(省エネ型) (省エネ型) (省エネ型) 路線名等 一の堰地区 工事箇所 阿南市宝田町 図 面 名 ゲート操作室建築工事特記仕様書 (6/9) 縮 尺 - 図面番号 7 会 社 名 事業者名 徳島県南部総合県民局農林水産部 (阿南)
---	--







1	フリーアクセスフロア (20.2.2)	<p>施工箇所 構法 寸法(mm) 高さ(mm) 耐震性能 所定荷重 表面仕上げ材 備考</p> <p>・置敷式 ・支柱調整式</p> <p>・500×500 ・</p> <p>・1.0G ・0.6G</p> <p>・3.00N ・5.00N</p> <p>・帯電防止床タイル ・タイルカーペット</p> <p>寸法精度 ※標準仕様書20.2.2(b)(5)(i)~(iii)による 厚さ ±0.5mm 平坦度 パネル周辺部 1.0mm以下 図心と各頂点を結ぶ線上部 2.0mm以下</p> <p>表面仕上げ材の品質、性能は、標準仕様書19章による。 構成材の材質 ・アルミニウム製 ・鋼製(仕上げ: ) スロープ及びボーダー ・製造所の仕様による ・図示 配線用取り出しパネル フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合 ・20~30パーセント</p> <p>配線取り出し開口 ・パネル枚につき、40mm×80mm 程度の開口箇所以上 ・図示</p> <p>空調用吹き出し(吸い込み)パネル ・なし ・あり(形式、施工箇所:図示)</p>
	2	可動間仕切 (20.2.3)
3	移動間仕切 (20.2.4)	<p>走行方向 操作方法 圧縮装置の操作方法 総厚さ(mm) 表面仕上げ材 遮音性能(dB/500Hz)</p> <p>・平行方向移動式 ・二方向移動式</p> <p>・手動式 ・電動式 ・部分電動式</p> <p>・フッシュ式 ・ハンドル式 ・</p> <p>・鋼板 ・焼付塗装 ・壁紙張り</p> <p>・36未満 ・36以上</p> <p>パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能 標準仕様書19章による 遮音性は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする ハンガーレールの取付け下地の補強 ※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。 ・図示</p>
	4	トイレブース (20.2.5)
5	視覚障害者用床タイル (11.2.2) (19.2.2)	<p>施工箇所 種類 寸法(mm) 厚さ(mm)</p> <p>屋内 ・塩化ビニル製 ・磁器質タイル(11期) ・せつ器質タイル(12期) ・レジンコンクリート製 ・コンクリート製</p> <p>・300×300 ・300×300</p> <p>・7.0 ・</p> <p>屋外 ・磁器質タイル(11期) ・せつ器質タイル(12期) ・レジンコンクリート製 ・コンクリート製</p> <p>・300×300 ・300×300</p> <p>・</p> <p>ブロックパターンは JIS T 9251 による</p>
	6	階段滑り止め (20.2.6)
7	手すり	<p>材種 表面仕上げ 直径(mm) 取付箇所 備考</p> <p>※集成材 ・クリヤラッカー ・</p> <p>・35 ・45</p> <p>・ステンレスパイプ ・鋼製パイプ ・ビニル製ハンドル</p> <p>・HL ・EP-G ・SOP</p>

8	黒板及びホワイトボード (20.2.8)	<p>種類 寸法(mm) 色 形式</p> <p>・黒板 ※焼付け ・ホワイトボード ※ほうろう</p> <p>※緑 ・黒</p> <p>・平面 ・曲面</p> <p>・スクリーン付き引分け ・スクリーン付き引分け</p>
	9	鏡 (20.2.9)
10	表示 (20.2.10)	<p>区分 材質 寸法(mm) 厚さ(mm) 取付高さ(mm) 備考</p> <p>・衝突防止表示(・曲面・片面) ・室名札 ・案内用図記号 ・とびら番号 ・庁舎案内板 ・各階案内板</p> <p>・ステンレス製 ・アクリル板 ・アクリル板 ・アクリル板 ・アクリル板</p> <p>・30φ ・図示 ・図示 ・図示 ・図示 ・図示</p> <p>・市販品 ・5 ・5 ・5 ・5</p> <p>・図示 ・図示 ・図示 ・図示 ・図示</p>
	11	煙突ライニング (20.2.11)
12	ブラインド (20.2.12)	<p>形式 操作方法 種類 スラットの材質 スラット幅(mm) ボックス・レールの材質 寸法・取付箇所</p> <p>・横型 ・手動 ※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式 ・電動 -</p> <p>※アルミニウム合金製 ・</p> <p>※25 ・</p> <p>※鋼製 ・</p> <p>・図示 ・</p> <p>・縦型 ・手動 ※2本操作コード ・1本操作コード式 ・電動 -</p> <p>・アルミスラット ・クロススラット</p> <p>・80 ・100</p> <p>アルミニウム合金製 ・</p> <p>・図示 ・</p> <p>アルミスラット 焼付け塗装仕上げ クロススラット 消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工 ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は</p>
	13	ロールスクリーン (20.2.13)
14	カーテン (20.2.14)	<p>形式 開閉操作 ひだの種類 きれ地の種類、品質、特殊加工等 取付箇所 備考</p> <p>・シングル ・ダブル</p> <p>・片引き ・引分け</p> <p>・手引き ・ひも引き ・電動</p> <p>・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・ブレンひだ、片ひだ</p> <p>・図示 ・</p> <p>(暗幕)</p> <p>使用される繊維のうち、ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品については ( ) とする 暗幕カーテンの高端、上部及び召合せの重なり ※300mm以上</p>
	15	カーテンレール (20.2.14)
16	ブラインドボックス及びカーテンボックス (20.2.14)	<p>溝幅×深さ(mm) ・90×150 ※120×80 ・120×150 ・150×80 ・図示 材質 ・集成材(仕上げ: ・アルミニウム製 押出し型材(市販品) 表面処理・C-1 ・C-2(・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー) ・ 皮膜等の種類 ※標準仕様書表14.2.11による ・鋼製(仕上げ: )</p>
	17	天井点検口
18	床点検口	<p>材種 寸法 形式 備考</p> <p>・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製</p> <p>・450×450 ・600×600</p> <p>・一般形 ・密閉形 ・結露防止形</p> <p>・屋内外用 ・屋内用</p> <p>・鍵付き</p>

19	耐震スリット	<p>方向 タイプ 耐火性能 防水性能 備考</p> <p>・垂直方法 ・水平方向</p> <p>・完全(全貫通型) ・</p> <p>・耐火型 ・非耐火型</p> <p>・有り ・無し</p> <p>目地 目地 内壁 外壁 目地材 ・シーリング材(見え掛り部のみ) ・ ・シーリング材(見え掛り部のみ) ・シーリング材(内外とも) 目地寸法(mm) ※幅20×深さ10 ※幅20×深さ10 ・</p> <p>目地材の材質は標準仕様書表9.7.2による</p> <p>形式 ・差込式 ・据置式 ・壁張り式 施工箇所 ・図示</p>
	20	止水板
21	エキスパンションジョイント金物	<p>材種 寸法(mm) 備考</p> <p>・W ・D ・H</p> <p>・1200 ・1500 ・1800</p> <p>・550 ・600 ・650</p> <p>・800 ・850</p> <p>市販品 トラップ付き 天板ステンレス製</p>
	22	くつふきマット
23	流し台ユニット	<p>材種 寸法(mm) 備考</p> <p>・W ・D ・H</p> <p>・1200 ・1500 ・1800</p> <p>・550 ・600 ・650</p> <p>・800 ・850</p> <p>市販品 トラップ付き 天板ステンレス製</p>
	24	旗竿
25	旗竿受金物	<p>材質 ・ステンレス製(SUS 304)</p>
	26	車止め支柱
27	フェンス	<p>フェンスの種類 ・ビニル被覆エキスパンドフェンス ・樹脂塗装メッシュフェンス ・鋼管フェンス ・アルミフェンス 高さ ・図示</p>
	28	プレキャストコンクリート (20.3.3.4)
29	間知石及びコンクリート間知石ブロック積み積み (20.4.2.3)	<p>種類 規格等 耐荷量による種類</p> <p>・鋼製書架 JIS S 1039による ・鋼製物品種</p> <p>・1種 ・2種 ・3種 ・4種 ・5種 ・6種</p>
	30	鋼製書架及び物品種
31	洗面カウンター	<p>材種 ・メラミン樹脂化粧板張り(心材:集成材) 奥行き(mm) ・約450 ・約600</p>

33	防煙垂れ壁	<p>固定式 材質 厚さ(mm) 高さ(mm) 備考 ※網入り磨き板ガラス ・線入り磨き板ガラス ※6.8 ・</p> <p>※500 ・</p> <p>アルミ製枠付き</p> <p>可動式 種類 材質 高さ(mm) 備考 ・垂直降下式(巻取り型) ・回転降下式</p> <p>※不燃布(不燃認定品) ・</p> <p>※500 ・800 ・</p> <p>※500 ・800 ・</p> <p>ガイドレール ※固定式(壁埋込み型) ・可動式(天井収納型) 表面仕上げ ※天井材張り</p> <p>降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置(埋込み型)</p>
	34	収納家具
35	屋外掲示板	<p>照明器具 ※有り ・無し 施設 ※有り ・無し</p>
36	敷地境界石標	<p>種類 ※コンクリートブロック製(市販品) ・花こう石類(文字記号等入り) 設置方法 根切り底を突き締めたうえ、厚さ60mmの砂利地業を行い、コンクリートで根巻きして 建て込む。埋込みは監督職員の立会いのもと行う。 コンクリートの調査(容積比)セメント1:砂2:砂利4程度</p>

工事名	阿南 耐震対策 一の壁 操作室改修工事(古い手摺型) (準手摺型)
路線名等	一の堰地区
工事箇所	阿南市宝田町
図面名	ゲート操作室建築工事特記仕様書(8/9)
縮尺	- 図面番号 9
会社名	
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部(阿南)

21 排水 排水	1 屋外雨水排水	(21.2.1) (表21.2.1)																				
	排水管材料	<table border="1"> <tr> <th>材 種</th> <th>管の種類</th> <th>形 状</th> <th>呼び径</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>・遠心力鉄筋コンクリート管</td> <td>外圧管 (1種)</td> <td>・B形管</td> <td>・図示</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・硬質ポリ塩化ビニル管</td> <td>・VP ・VU ・RS-VU [G]</td> <td></td> <td>・図示 ・図示 ・図示</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・硬質ポリ塩化ビニル管継手</td> <td>・DV</td> <td></td> <td>・図示</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>基礎の厚さ及び種類 ※図示 硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤 側溝の形状及び寸法 ※図示 排水溝の種類 ※図示 砂地業に用いる材料 ※標準仕様書 (21.2.1) (g) (1) ・図示 砂利地業に用いる材料 ※標準仕様書 (21.2.1) (g) (2) ・図示 コンクリート基礎等に用いる材料 ※標準仕様書 (6.14) 設計基準強度18N/mm<sup>2</sup>とする。 ただし、コンクリートが簡易な場合の割合 (容積比) セメント1：砂2：砂利4程度とする。 ・図示</p> <p>・凍上抑制層 (21.2.1) (表21.2.2) 厚さ ・図示 材料 ・再生クラッシュラン [G] ・クラッシュラン ・切込み砂利 ・川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下) 砂の粒度試験 ・行う ・行わない</p>	材 種	管の種類	形 状	呼び径	備 考	・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1種)	・B形管	・図示	・	・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP ・VU ・RS-VU [G]		・図示 ・図示 ・図示	・	・硬質ポリ塩化ビニル管継手	・DV		・図示	・
	材 種	管の種類	形 状	呼び径	備 考																	
	・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1種)	・B形管	・図示	・																	
	・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP ・VU ・RS-VU [G]		・図示 ・図示 ・図示	・																	
・硬質ポリ塩化ビニル管継手	・DV		・図示	・																		
2 鋼鉄製ふた	(21.2.1)																					
3 グレーチング	(21.2.1)																					
4 街きよ、緑石、側溝	(21.3.1) (表21.3.1)																					
5 埋戻し土	(21.2.1)																					
	※B種																					

22 舗装 舗装	1 路床	(22.2.2, 3, 5)																								
	路床の材料	<table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th colspan="4">材 料</th> <th>厚 さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・盛土</td> <td>・A種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G]</td> <td>・B種 ・C種 ・D種</td> <td>・D種</td> <td>・図示</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・凍上抑制層</td> <td>・再生クラッシュラン [G] ・切込み砂利 ・川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下)</td> <td>・クラッシュラン</td> <td></td> <td>・図示</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・フィルター層</td> <td>・川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量6%以下)</td> <td></td> <td></td> <td>・図示</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>路床安定処理 ・添加材料による安定処理 種類 ・普通ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 ・生石灰 ( ) ・消石灰 ( ) 添加量 kg (目標CBR ・5以上 ) ・ジオテキスタイル 単位面積質量 ・60g/m<sup>2</sup>以上 ・ 厚さ (mm) ・0.5~1.0 ・ 引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 ・ 透水係数 ・1.5×10<sup>-4</sup> cm/sec以上 ・</p> <p>試験 砂の粒度試験 ・行う ・行わない 路床土の支持力比 (CBR) 試験 ・行う ・行わない 現場CBR試験 ・行う ・行わない 路床締固めの試験 (現場密度) ・行う ・行わない</p>	種 別	材 料				厚 さ (mm)	・盛土	・A種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G]	・B種 ・C種 ・D種	・D種	・図示	・	・凍上抑制層	・再生クラッシュラン [G] ・切込み砂利 ・川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下)	・クラッシュラン		・図示	・	・フィルター層	・川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量6%以下)			・図示	・
	種 別	材 料				厚 さ (mm)																				
	・盛土	・A種 ・建設汚泥から再生した処理土 [G]	・B種 ・C種 ・D種	・D種	・図示	・																				
	・凍上抑制層	・再生クラッシュラン [G] ・切込み砂利 ・川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量10%以下)	・クラッシュラン		・図示	・																				
	・フィルター層	・川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量6%以下)			・図示	・																				
2 路盤	(22.3.2, 3, 5) (表22.3.1)																									
3 アスファルト舗装	(22.4.2~6) (表22.4.1~4)																									
4 コンクリート舗装	(22.5.2~4, 6) (表22.5.1~3)																									
5 カラー舗装	(22.6.2~4) (表22.6.1)																									
6 透水性 アスファルト舗装	(22.7.2, 3, 6)																									
	試験 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない 舗装の平坦性 ※著しい不陸がないもの ・																									

7 ブロック系舗装	7 ブロック系舗装	(22.8.2, 3)																														
	・コンクリート平板舗装	<table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>目地材</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>※普通平板 (N) ・透水平板 (P)</td> <td>※300角 ・</td> <td>・60 ・</td> <td>※砂 ・モルタル</td> <td>表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たき出し</td> </tr> </table> <p>歩行者用道路に使用するコンクリート平板は [G] (再生材料を用いた舗装用ブロック) とする。 透水平板は [G] (透水性コンクリート) とする。 仕上がり面の平坦性 ※歩行に支障のないものとし、コンクリート平板間の段差3mm以内</p> <p>・インターロッキングブロック舗装</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>部 位</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>曲げ強度 (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>※普通ブロック (N) ・透水ブロック (P)</td> <td>車 路 歩行者用道路</td> <td>※80 ※60</td> <td>※5.0 ・</td> <td>色彩、表面加工 ・標準品</td> </tr> </table> <p>歩道部に使用するブロックは [G] (再生材料を用いた舗装用ブロック) とする。 透水平板は [G] (透水性コンクリート) とする。 仕上がり面の平坦性 ※歩行に支障のないものとし、ブロック間の段差3mm以内</p> <p>・鋪石舗装</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>施工方法</th> <th>基層 (mm)</th> </tr> <tr> <td>・小鋪石 (花崗岩) ・</td> <td>・</td> <td>・80 ・</td> <td>・うろこ張り ・</td> <td>・コンクリート舗装 (※70 ・) ・アスファルト舗装 (※50 ・)</td> </tr> </table> <p>仕上がり面の平坦性 ※歩行に支障のないものとし、鋪石間の段差3mm以内 ジオテキスタイル 品質 単位面積質量 ・60g/m<sup>2</sup>以上 ・ 厚さ (mm) ・0.5~1.0 ・ 引張強さ ・98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 ・ 透水係数 ・1.5×10<sup>-4</sup> cm/sec以上 ・</p>	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備 考	※普通平板 (N) ・透水平板 (P)	※300角 ・	・60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たき出し	種 類	部 位	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm <sup>2</sup> )	備 考	※普通ブロック (N) ・透水ブロック (P)	車 路 歩行者用道路	※80 ※60	※5.0 ・	色彩、表面加工 ・標準品	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	施工方法	基層 (mm)	・小鋪石 (花崗岩) ・	・	・80 ・	・うろこ張り ・	・コンクリート舗装 (※70 ・) ・アスファルト舗装 (※50 ・)
	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備 考																											
	※普通平板 (N) ・透水平板 (P)	※300角 ・	・60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たき出し																											
	種 類	部 位	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm <sup>2</sup> )	備 考																											
※普通ブロック (N) ・透水ブロック (P)	車 路 歩行者用道路	※80 ※60	※5.0 ・	色彩、表面加工 ・標準品																												
種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	施工方法	基層 (mm)																												
・小鋪石 (花崗岩) ・	・	・80 ・	・うろこ張り ・	・コンクリート舗装 (※70 ・) ・アスファルト舗装 (※50 ・)																												
8 砂利敷き	(22.9.2)																															
9 路面標示用塗料	<p>JIS K 5665 (路面標示用塗料) による</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>施 工</th> <th>適 用</th> <th>色</th> <th>幅 (mm)</th> <th>塗布厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・1種 [G] ・2種 [G] ・3種1号</td> <td>常温 加熱 溶融</td> <td>液状 ・</td> <td>・白 ・</td> <td>・150 ・100</td> <td>・1.0 ・</td> </tr> </table> <p>[G] 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料</p>	種 類	施 工	適 用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)	・1種 [G] ・2種 [G] ・3種1号	常温 加熱 溶融	液状 ・	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・																			
種 類	施 工	適 用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)																											
・1種 [G] ・2種 [G] ・3種1号	常温 加熱 溶融	液状 ・	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・																											
8 砂利敷き	(22.9.2)																															
9 路面標示用塗料	<p>JIS K 5665 (路面標示用塗料) による</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>施 工</th> <th>適 用</th> <th>色</th> <th>幅 (mm)</th> <th>塗布厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・1種 [G] ・2種 [G] ・3種1号</td> <td>常温 加熱 溶融</td> <td>液状 ・</td> <td>・白 ・</td> <td>・150 ・100</td> <td>・1.0 ・</td> </tr> </table> <p>[G] 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料</p>	種 類	施 工	適 用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)	・1種 [G] ・2種 [G] ・3種1号	常温 加熱 溶融	液状 ・	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・																			
種 類	施 工	適 用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)																											
・1種 [G] ・2種 [G] ・3種1号	常温 加熱 溶融	液状 ・	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・																											

23 植栽及び 屋上緑化 工事	1 補栽地の確認等	(23.1.3)
	2 補栽基盤の整備	(23.2.2, 4)
	3 補込み用土	(23.2.3)
	4 土壌改良材	(23.2.3)
	5 樹木	(23.3.2)
	6 支柱	(23.3.2, 3)
	7 幹巻き用材料	(23.3.2)
	8 芝	(23.4.2)
	9 吹付けは種	(23.4.2)
	10 地被類	(23.4.2)
	11 新植、移植樹木、芝等の枯保証	(23.3.4) (23.3.6) (23.4.7)
	12 屋上緑化 [G]	(23.5.2, 3)

土壌の水素イオン濃度指数 (pH) 試験 ・行う ・行わない  
電気伝導度 (EC) の試験 ・行う ・行わない

種 裁	工 法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 (※100 ・120 ・150) 樹高7m以上~12m未満 (※80 ・100) 樹高3m以上~7m未満 (※60 ・80) 樹高3m未満 (※50 ・60)	・葉張り部分 ・補栽部分 ・図示	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※20 ・	・補栽部分 ・図示	・適用する ・適用しない

補栽基盤の排水設備 ・設ける (※図示 ・ )  
・設けない

※現場発生土の良質土 ・客土

・バーク堆肥 [G]  
施工箇所  
使用量 ※補栽範囲  
補栽基盤面積1m<sup>2</sup>あたり ( ・501 ・ )

・汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト) [G]  
施工箇所  
使用量 ※補栽範囲  
補栽基盤面積1m<sup>2</sup>あたり ( ・101 ・ )

材料  
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、補栽試験の結果、害が認められないものとする

樹種、寸法、株立数等 ※図示 ・

支柱材 ※丸太 (間伐材) [G] ・真竹 ・  
防腐処理方法 ※加圧防腐処理丸太材 ・  
形式 ・図示 ・

材料 ※幹巻き用テープ ・わら及びこも

種類  
※コウライシバ ・ノシバ  
芝張りの工法  
平地 ※目地張り ・べた張り  
法面 ・目地張り ※べた張り

種子の種類	発芽率	種子の量 (g/m <sup>2</sup> )	備 考
※洋芝類 (採取後2年以内)	※発芽率80%以上		
・	・		

樹 種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・	・	・	・
・	・	・	・

新植樹木 (芝張り、吹付けは種及び地被類を含む) の枯補償の期間  
※引渡しの日から1年 ・無し  
移植樹木の枯損処置を行う期間  
※引渡しの日から1年 ・無し

補栽基盤及び材料  
・屋上緑化システム  
土壌層の厚さ ・図示 ・  
排水層 ・軽質骨材 (層の厚さ: ) ・板状成形品  
補込み用土 ※改良土 ・人口軽量土  
樹木の樹種並びに種類、寸法、株立数、寸法等 ※図示 ・  
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※図示 ・

・屋上緑化軽量システム  
芝及び地被類の樹種並びに種類等 ※図示 ・  
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※図示 ・

(23.5.4)

工法  
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法  
※適用する (建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)  
・適用しない

支柱 ・設置する (形式 ・図示 ・ )  
かん水装置 ・設置する (種類 ・ ・ )

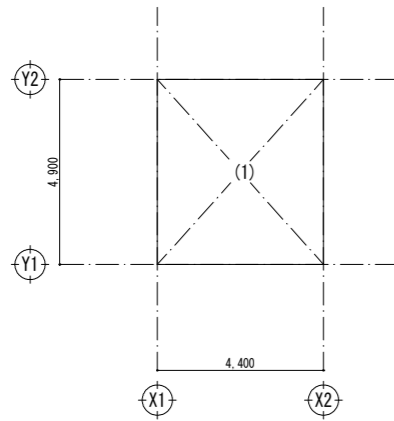
工 事 名	阿南幹 耐震対策 -の補 修工事(指し手補修型)(補正日指定型)		
路線名等	一の 塚 地 区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図 面 名	ゲート 作 業 建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (9/9)		
縮 尺	-	図面番号	10
会 社 名			
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部 (阿南)		

# ゲート操作室仕上表・面積表・建具表

外部仕上表	
屋根・・・	折板 ステンレス t=0.8 H=150 裏面ペフ張り
外壁・・・	ALC t=100 複層仕上塗材 RE 換気口：アルミ製 100φ
軒裏・・・	折板 現し
開口部・・・	アルミサッシ：陽極酸化塗装複合皮膜 アルミ製扉 スチール製シャッター：焼付塗装 枠：ステンレス HL

内部仕上表											
階	室名・・・	床	床下地	巾木・・・	壁	壁下地	天井・・・	天井下地	天井高	廻り縁	備考・・・
	操作室	-既存床：コンクリート(既存のまま) -拡張床：C-PL(別途工事)	-RC 及び C-PL	-	ALC t=100 フィーラー塗布	-	折板 裏面ペフ現し	-	直天	-	-柱・梁は溶融亜鉛メッキ素地とする

求積図 S=1:100



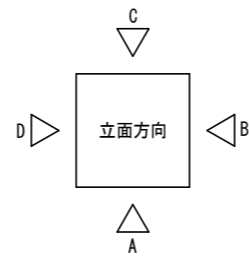
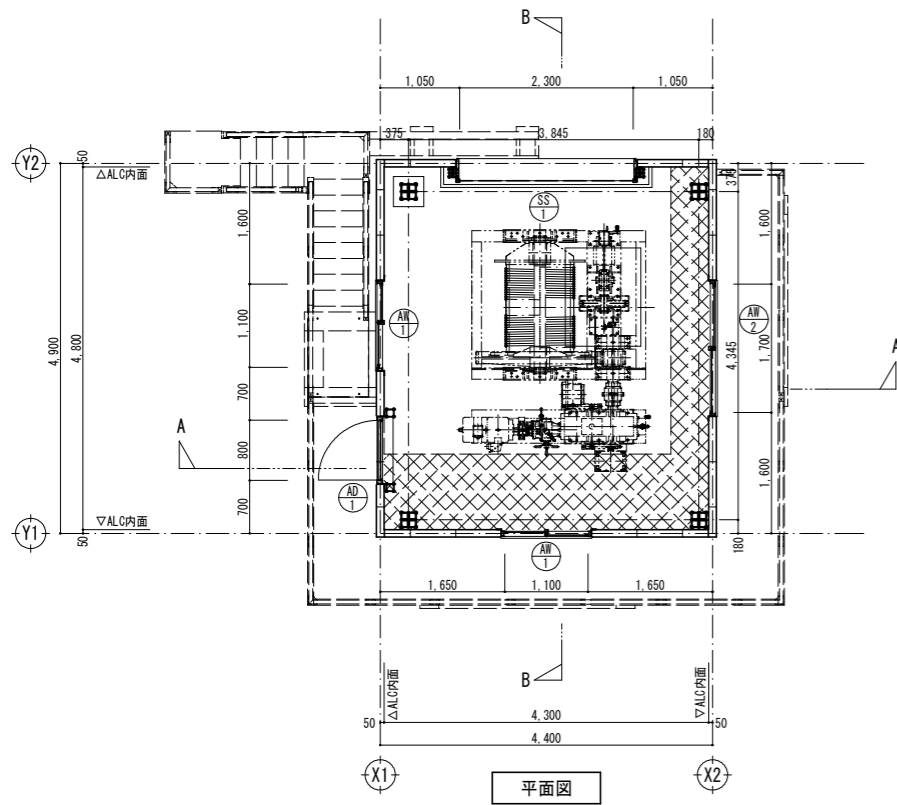
建築面積	(1) 4,400 X 4,900 = 21,5600	21,56m <sup>2</sup>
床面積	(1) 4,400 X 4,900 = 21,5600	21,56m <sup>2</sup>

建具表 S=1:50

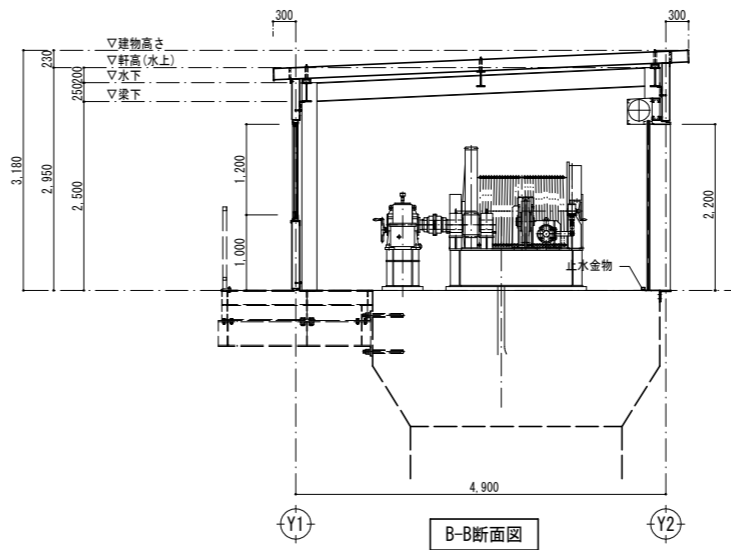
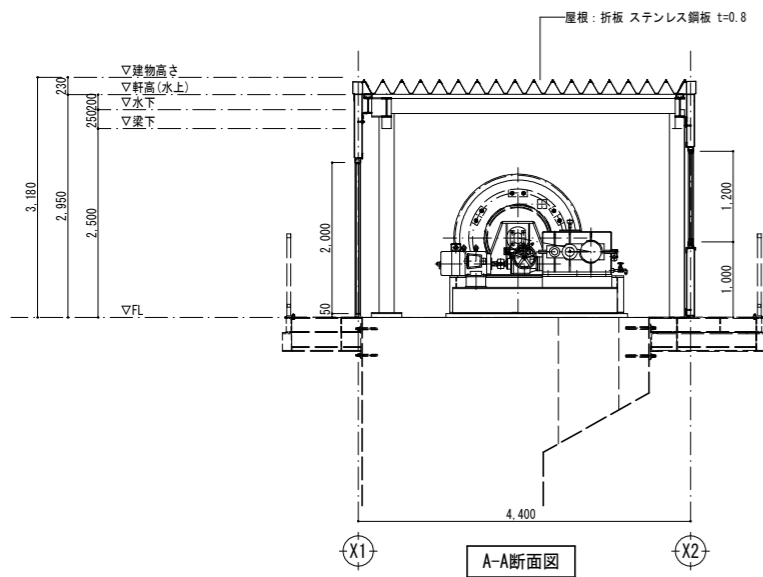
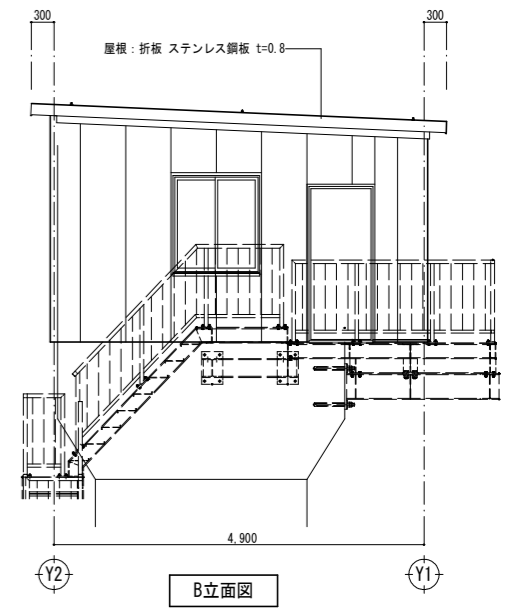
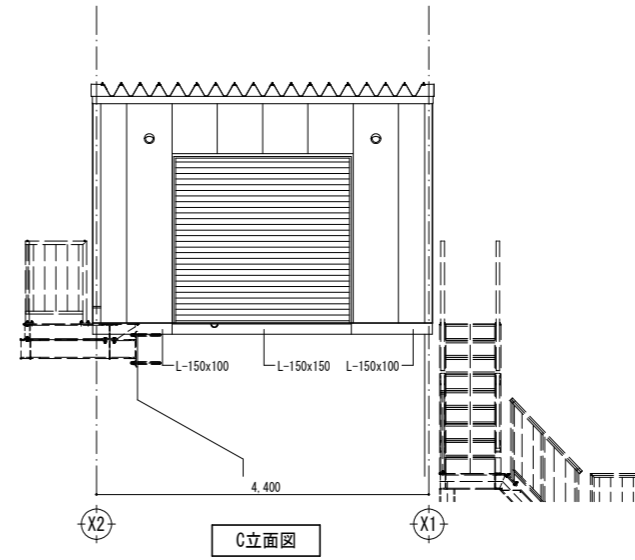
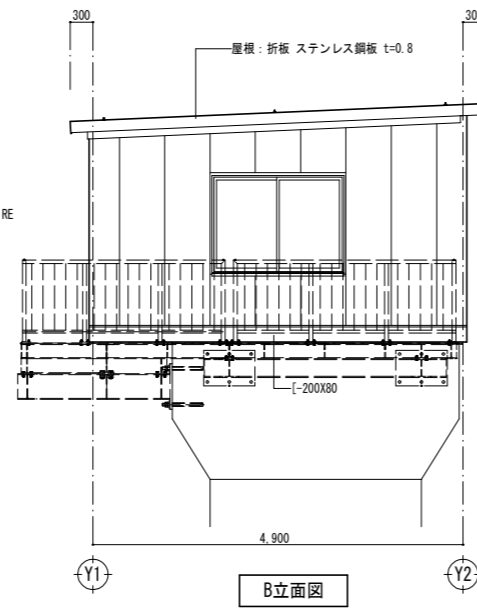
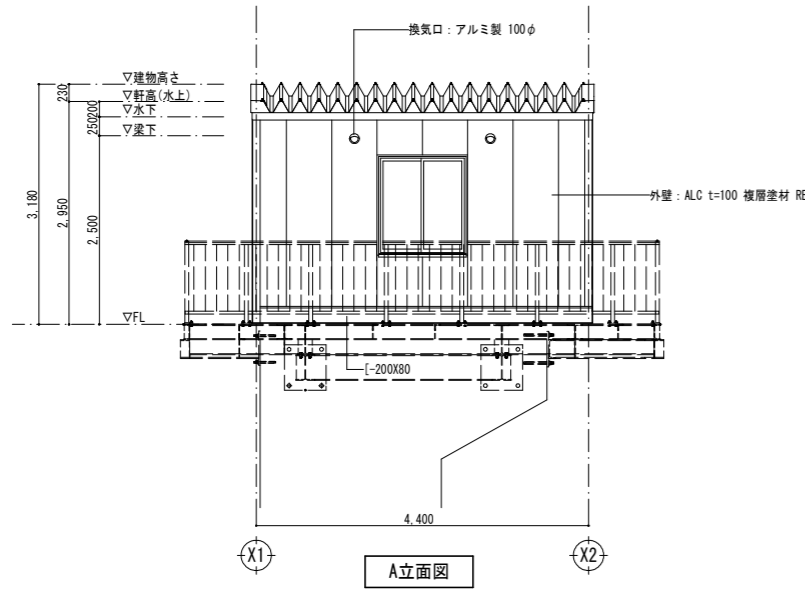
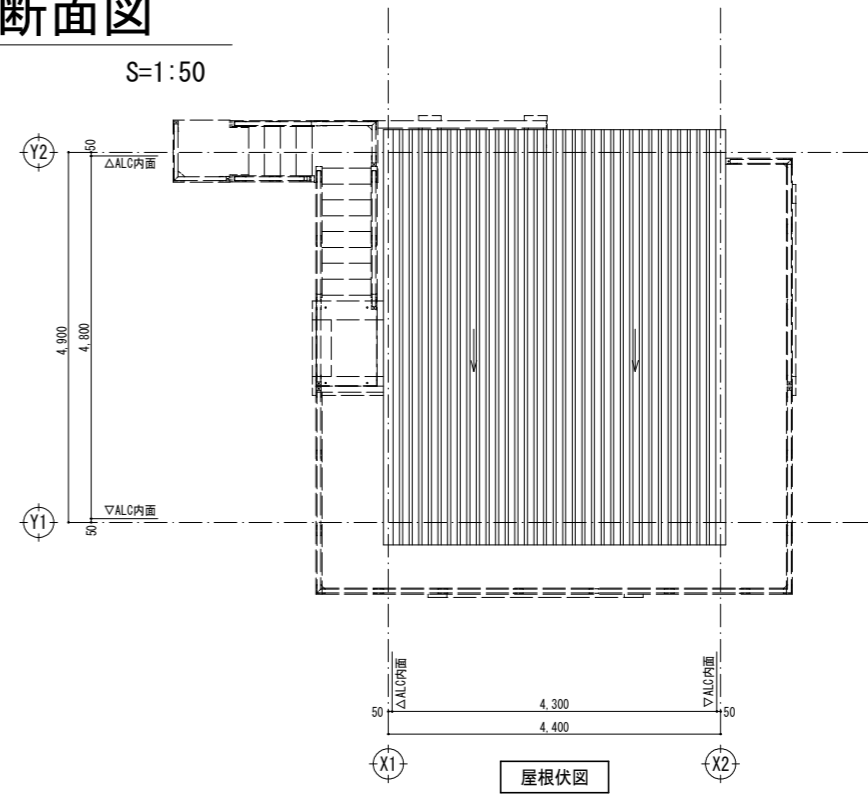
符号	名称	個数	AW1 アルミ製引き違い窓	2カ所	AW2 アルミ製引き違い窓	1カ所	AD1 アルミ製片開き扉	1カ所	SS1 スチール製軽量シャッター(手動)	1カ所
姿図										
場所			操作室		操作室		操作室		操作室	
仕上(枠共)			アルミ カラー(標準色)		アルミ カラー(標準色)		アルミ カラー(標準色)		焼付塗装	
建具	見込									
	ガラス		網入り型 t=6.8		網入り型 t=6.8		網入り型 t=6.8 アルミPL-3			
	ガラリ									
建具枠見込	吝摺		70		70		70			
建具金物			クレセント 付属金物一式 網戸		クレセント 付属金物一式 網戸		SUS丁番 レバーハンドル 本締錠 DC		シャッターボックス(スチール焼付塗装)	
	備考						下枠：SUS		ガイドレール・まぐさ：SUS ボトム：アルミ	

工事名	阿南 新設対策 一の堰 操作室改修工事(色い手廻り型)(着手日指定型)		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室仕上表・面積表・建具表		
縮尺	-	図面番号	11
会社名			
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部(阿南)		

# ゲート操作室平面図・立面図・断面図



S=1:50



工事名	防阿群 耐震対策 一の堰 操作室改修工事(古い手種模倣)(着手日指定型)		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室平面図・立面図・断面図		
縮尺	S=1:50	図面番号	12
会社名			
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部(阿南)		

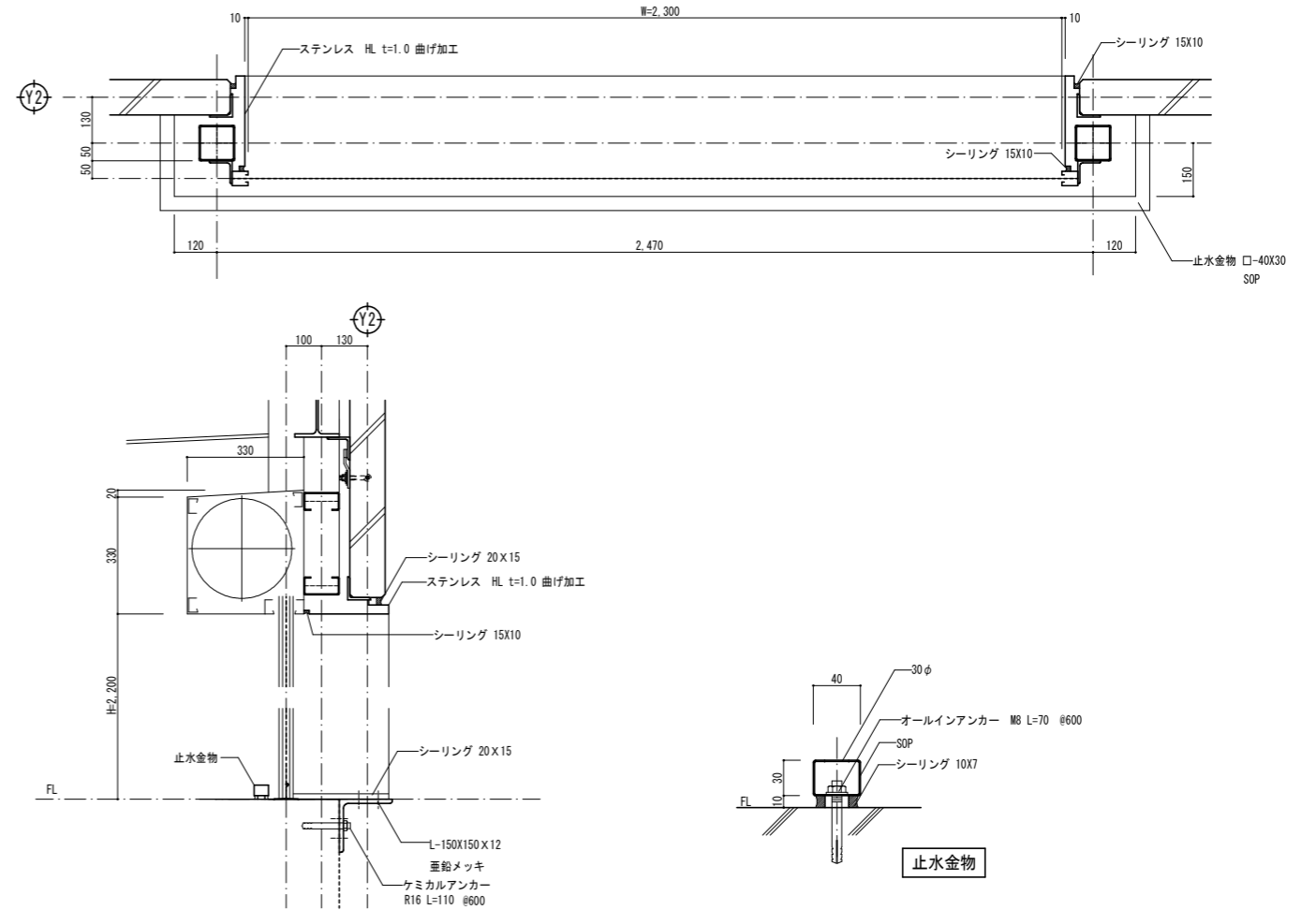
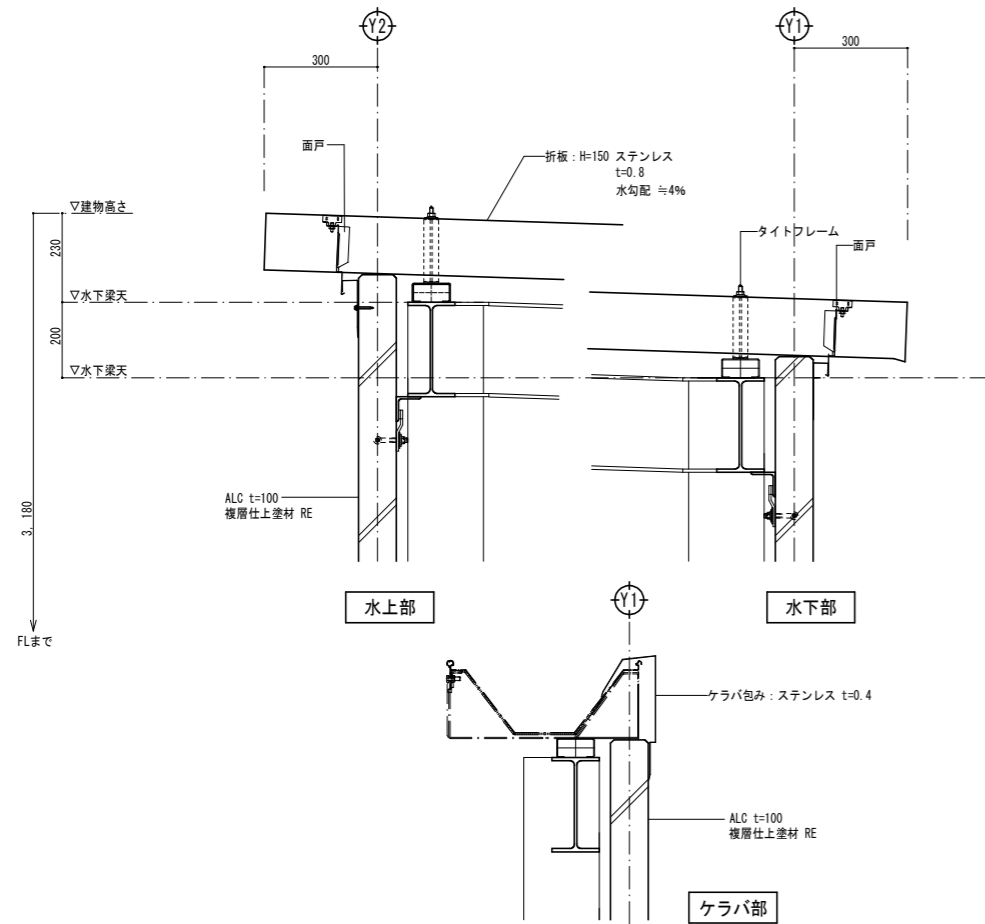
# ゲート操作室詳細図

屋根詳細

S=1:10

シャッター詳細

S=1:10

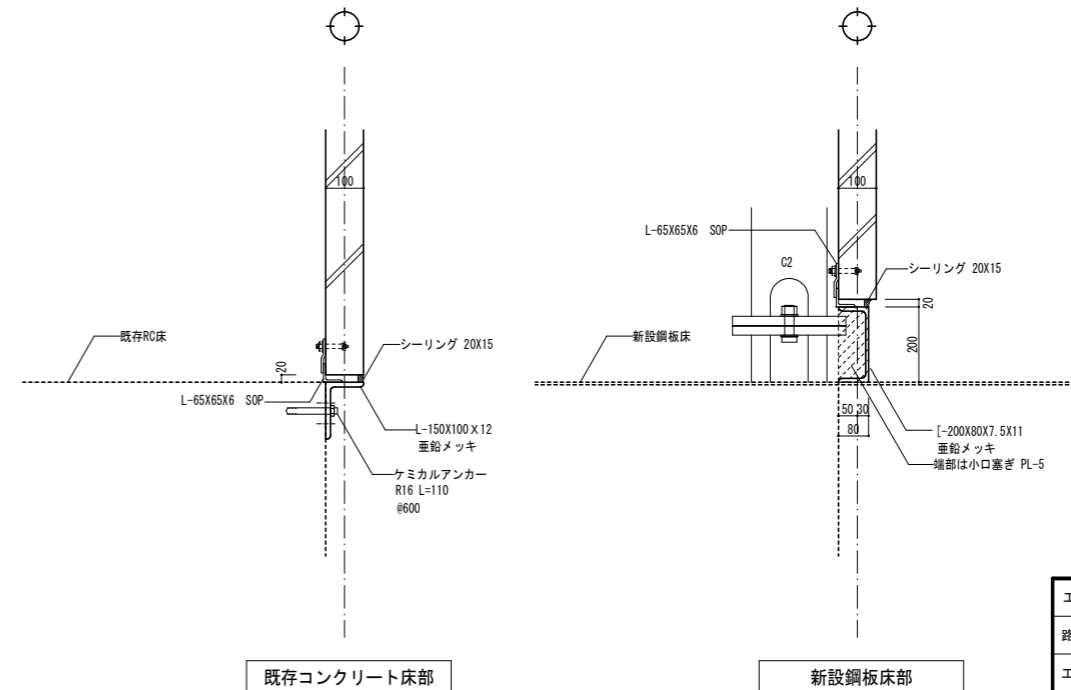
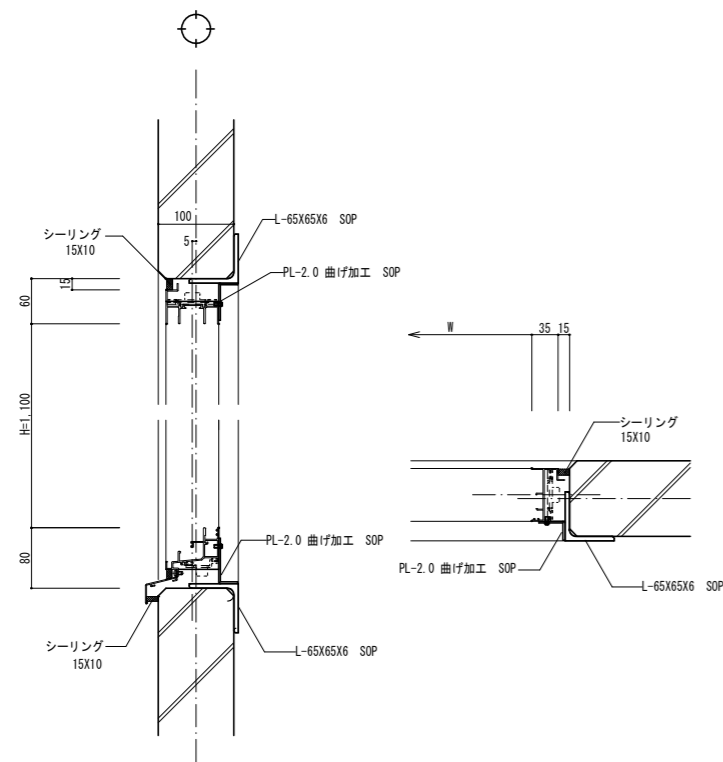


AW-1、AW-2詳細

S=1:5

ALC足元取付詳細

S=1:10



工事名	R6阿南 耐震対策 一の堰 操作室改修工事(図1手続類型)(着平日指定型)		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室詳細図		
縮尺	図示	図面番号	13
会社名			
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部(阿南)		

# ゲート操作室構造設計仕様書(標準)

適用は■印を記入する。

## 1. 建築物の構造内容

- 工事名称  
建築場所 徳島県阿南市
- 工事種別 ■新築 □増築 □増改築 □改築
- 構造種別  
□鉄筋コンクリート造(RC) □補強コンクリートブロック造(CB) ■鉄骨造(S)  
□鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) □壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)  
□プレキャスト鉄筋コンクリート造(WRC) 壁式鉄筋コンクリート造(WRC)
- 階数  
地上 階 1 地上 階 0 塔屋 階
- 主要用途 機械室
- 屋上付属物  
□高架水槽 kN □室外機 kN □避雷針 □アンテナ  
特別な荷重
- エレベーター 6人乗り(ロープ式 油圧式) □リフト kN □ホイスト  
□倉庫積載床用 N/m<sup>2</sup> □受水槽 kN
- 付帯工事  
□門扉 □擁壁 □ □ □ □
- 増築計画 □有 ( ) ■無
- 構造計算ルート X方向ルート - ( 1 ) Y方向ルート - ( 1 )

## 2. 使用構造材料

### (1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> =N/mm <sup>2</sup>	品質基準強度 F <sub>q</sub> =N/mm <sup>2</sup>	スランプ cm	備考
捨てコンクリート	■普通				
土間コンクリート	■普通				
基礎、基礎梁	■普通又は高炉B種				
床・その他	■普通、□軽量				
	□普通、□軽量				
押えコンクリート	■普通、□軽量				
混和剤	AE減水剤(必要に応じて)				

### (2) コンクリートブロック(CB)

- A種 □B種 □C種 厚□100 □120 □150 □190

### (3) 鉄筋

種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	■SD295A		■重ね継手 D10~D16
	■SD345		
	□SD390		■ガス圧接継手 D19~D32
	□		
高強度せん断補強筋	□		□特殊継手
丸鋼	□SR235		( )
溶接金網	■		

### (4) 鉄骨

種類	使用箇所	現場溶接	備考
■SS400 □SM400 □SN400A, B, C	大梁・小梁・鋼板	□有 ■無	
■SS400 □SM400 □SN400A, B, C	座屈止め	□有 ■無	
■STKR400 □BCP325 □	柱	□有 □無	
□SM490A □SN490B, C □		□有 □無	
□SN490C	ダイヤフラム	□有 ■無	

○使用箇所の詳細については別途図示とする。

### (5) ボルト

- 普通:F10T ■特殊:S10T 認定品(□M12 ■M16 ■M20 ■M22 ■M24)  
■メッキ:F8T 高力ボルトすべり係数試験 □要 ■否

### ■アンカーボルト

- SS400 M12, M16 L = S-14参照 ナット(□シングル □ダブル)  
■ABM400(SNR400B) M24 L = 750mm(埋込み長さ) ナット(□シングル ■ダブル)

### □頭付スタッドボルト

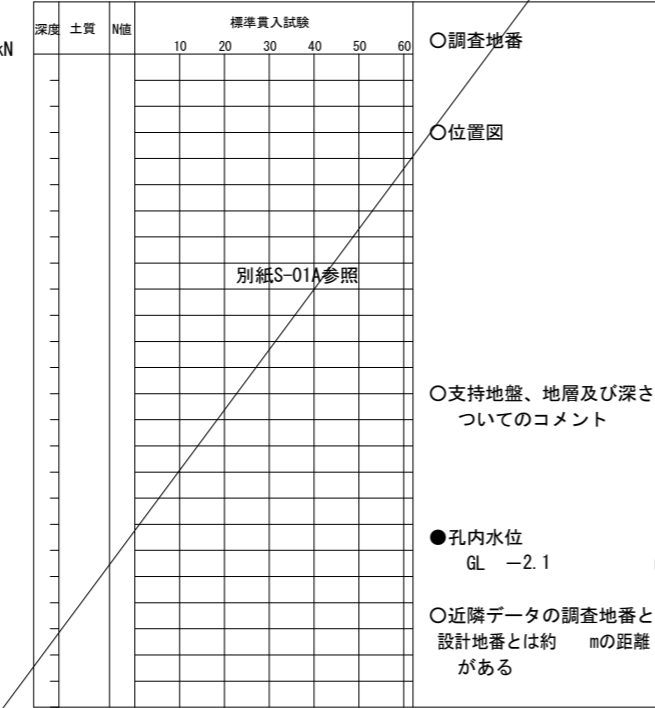
- φ = L = mm 使用箇所(□柱 □大梁 □小梁)  
φ = L = mm 使用箇所(□柱 □大梁 □小梁)

### (6) 屋根、床、壁

- 防火サイディング 厚 H = mm 厚 0.8 mm  
■ガルバニウム鋼板(屋根)  
□デッキプレート 型式 厚  
□キーストーンプレート 型式 厚  
□特殊デッキプレート  
■チェッカープレート(床)

## 3. 地盤

- 地盤調査資料  
■有(■敷地内 □近隣) ■ボーリング調査 □平板載荷試験 □水平地盤反力係数の測定  
■液状化判定 □現場透水試験 ■室内土質試験  
□無(調査予定 □有 □無)
- 地盤調査計画  
□ボーリング調査 □静的貫入試験 □標準貫入試験 □水平地盤反力係数の測定  
□土質試験 □物理探査 □平板載荷試験 □試験堀(支持層の確認)
- 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ形状を変更する場合もある
- ボーリング標準貫入値、土質構成(基礎・杭の位置を明記すること)



●備考 GL-11.3mの礫混じり砂で液状化の可能性あり。

## 4. 地業工事

- 直接基礎  
□ベタ基礎 □布基礎 □独立基礎 試験堀 □有 □無  
基礎深さ GL - m 風化層 ■S-01A参照  
長期許容支持力度 2 kN/m<sup>2</sup> 載荷試験 □有 ■無
- 杭基礎 支脚層 泥岩

杭種	材料	施工法	備考
□RC □PRC	PRC(□1種 □2種 □3種)	□打ち込み □埋込み(セメントミルク工法)	
□PHC □H鋼	PHC(□A種 □B種 □C種)	■圧入工法(G-EC工法)	大臣認定第 1AOP-0448 号 H26年2月28日
■鋼管	鋼材(□SS400 ■STK490)	□	
□場所打ち コンクリート杭	コンクリート F <sub>c</sub> 2 N/mm <sup>2</sup> スランプ セメント量 3 kN/m <sup>3</sup> 鉄筋主筋 SD390 HOOP SD295A	□オールケーシング □広底杭 □リパースキューレーション □アースドリル □ミニアース □BH □深礎 □手堀 □機械掘	広底杭 日本建築センター認定工法 年月日

### 杭仕様 試験杭

杭径(mm)	長期許容支持力(kN/m <sup>2</sup> )	短期許容支持力(kN/m <sup>2</sup> )	本数	特記事項
φ267.4	723.00	1442.00	2	
φ216.3	498.25	996.50	12	

- (3) 基礎梁 捨てコン t=50mm 基礎 捨てコンのみ t=50mm  
敷砂利 t=50mm 敷砂利 t=50mm

## 5. 鉄筋コンクリート工事

- コンクリート  
■コンクリートはJIS認定工場の製品とし、施工に関してはJASS5(2015)による。  
■耐久設計基準強度 F<sub>d</sub> ■短期 □標準 □長期  
■セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。  
■調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。  
■寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。  
■フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。  
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。  
■構造体コンクリートについて、現場の圧縮強度試験供試体(JASS5T-003)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。  
また、打ち込み量が150mを超える場合は、150mごとまたは、その端数ごとに1回を標準とする。1回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用3本を用いる。  
■ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。  
(2) 鉄筋  
■鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とする。施工はJASS5(2015)による。  
□高強度せん断補強筋は、JIS G 3137に規定されるD種1号適合品とする。  
■鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「配筋基準共通事項」、「配筋基準」または「壁式配筋基準」による。  
■D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。  
■継手部の施工要領は(社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書」(ガス圧接継手工事、機械式継手工事)による。  
外観検査 ■有 □無、引張試験 ■有(5本/ロット) □無、超音波試験 □有 ■無  
超音波試験の場合、最初の数ロットは引張試験も併用し、1回の試験は5本以上とする。(1ロットは同一作業班が同一日に作業した圧接箇所で200カ所程度とする。)  
■柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、■H型(タガ型) □W型(溶接型) □S型(スパイラル型)とする。  
■コンクリート及び鉄筋の試験は、公的機関とし、設計者・工事監理者の承認を受けた機関及び代行者とする。
- 型枠  
■材料 合板厚 12mmを標準とする。 ■施工はJASS5による。  
■型枠存置期間

セメントの種類	せき板		支柱				
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下		
早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	
高炉セメント	高炉セメント	高炉セメント	高炉セメント	高炉セメント	高炉セメント	高炉セメント	
シリカセメント	シリカセメント	シリカセメント	シリカセメント	シリカセメント	シリカセメント	シリカセメント	
コンクリートの平均気温	2	3	4	6	8	17	28
15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
5℃~15℃	3	5	6	10	12	25	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの圧縮強度	5.0N/mm <sup>2</sup>		設計基準強度の50%		設計基準強度の		
					85%	100%	

- 注) 1 片持はり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。  
注) 2 大はりの支柱の盛りかえは行わない、また、その他のはりの場合も原則として行わない。  
注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。  
注) 4 盛りかえ後の支柱項部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。  
注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。  
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。  
注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は、工事監理者の指示による。

## 6. 鉄骨工事

- 鉄骨工事は指示のない限り下記による  
■日本建築学会 「JASS6」 「鉄骨精度検査基準」 「鉄骨工事技術指針」  
■鋼材倶楽部 「建築鉄骨工事施工指針」  
□
- 工事監理者の承認を必要とするもの  
■認定または登録工事 ( M グレード 都登録 ランク)  
■材料規格証明書または試験成績書  
■製作工場 ■製作要領書 ■工作図 ■施工計画書  
■社内検査表 □  
■鋼材 ■高力ボルト □特殊ボルト ■頭付スタッド
- 工事監理者が行う検査項目  
(□印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)  
□建方検査 ■工作図 □  
□現寸検査 □組立・開先検査 ■製品検査
- 接合部の溶接は下記によること  
□鉄骨造等の建築物の工事に係る東京都取扱要綱(建築構造設計指針第12章)  
■日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」  
□日本建築学会「溶接工作基準、同解説 [1]、[2]、[3]、[4]、[5]、[6]、[7]、[8]、[9]」
- 接合部の検査  
■溶接部の検査溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事監理者	
■完全溶込み溶接部	超音波探傷試験	100	20	20	1ロットは220ヶ所とする。
■隅肉溶接	外観(目視)検査	100	20	20	
□	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関名とは、建築主、工事監理者または工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

- 注1) 現場溶接部については、原則として第三者検査機関による全数検査を行う事。  
注2) 現場溶接部は、超音波探傷試験を100%行う事。

- 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリッドブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。  
■高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

### (6) 防錆塗料

- 防錆塗料の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めのペイントは、JIS K5674、2回塗りを標準とする。  
■現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。  
■屋外鉄骨は溶融亜鉛メッキとする  
(7) 耐火被覆の材料(耐火被覆を施す場合は錆止め塗装は不要)  
□

## 7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。  
■床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。  
■設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。

## 8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。  
■各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。  
■必要に応じて記録写真を撮影保管すること。

工事名	阿南市 阿南第一 第一 操作室改修工事(新築/手築型) (準手築型)		
路線名等	一の塚地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室構造設計仕様書		
縮尺	-	図面番号	14
会社名			
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部(阿南)		

※全てのゲート操作室に共通

# ゲート操作室鉄骨基準

高力ボルト ・ ボルトの特記事項

## 1. 形鋼のゲージ(g)と最大軸径(d)

A, B	g <sub>1</sub>	g <sub>2</sub>	d	B	g <sub>1</sub>	g <sub>2</sub>	d	B	g <sub>3</sub>	d
40	22		10	100	60		16	40	24	10
45	25		12	125	75		16	50	30	16
50	30		16	150	90		22	65	35	20
60	35		16	175	105		22	70	40	20
65	35		20	200	120		24	75	40	22
70	40		20	250	150		24	80	45	22
75	40		22	300	150	40	24	90	50	24
80	45		22	350	140	70	24	100	55	24
90	50		24	400	140	90	24			
100	55		24							
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

(注) 1) ※印のB-300は千鳥配置とする。

2) ※※印欄のg及び最大軸径の値は強度上支障がないとき、最小縁距離の規定にかかわらず用いることができる。

## 2. ピッチ・縁距離

軸径 d	16	20	22	24
ピッチ P	標準 60	70	80	90
	最小 40	50	55	60
縁端距離 e	標準 40	40	40	45
	最小 (1) 28	34	38	44
	(2) 22	26	28	32

(注) 1) e : (1) は、せん断線、手動ガス切断線の場合の縁端距離  
(2) は、圧延線、自動ガス切断線、のこ引線、機械仕上げの場合の縁端距離  
2) ボルトピッチ、縁端距離を変更する場合は、監理者と協議すること。

※ 大梁継手はSCSS-H97に準ずる。

## 3. 孔径

ボルトの種類	孔径 D	軸径dの範囲
高力ボルト	d + 2	d < 27
	d + 3	d ≥ 27
ボルト	d + 0.5 (注)	
アンカーボルト	d + 5	

(注) 母屋、胴縁類の取付け用ボルトの場合は、d + 1.0 とすることができる。

## 4. 接合の精度

名称	図	許容差
孔の心ずれ e		e ≤ 1mm
孔相互の間隔 Δp		-1mm ≤ Δp ≤ +1mm
孔の食い違い e		e ≤ 1mm
高力ボルト接合の肌すき e		e ≤ 1mm
孔のはしあき・へりあき Δa		Δa1 ≥ -2mm Δa2 ≥ -2mm かつ「鋼構造設計規準」「高力ボルト接合設計ガイドブック」の最小縁端距離を満足すること。

上記は、JASS6 2007年版の管理許容差を示す。

## 5. 圧縮部材のはさみ板

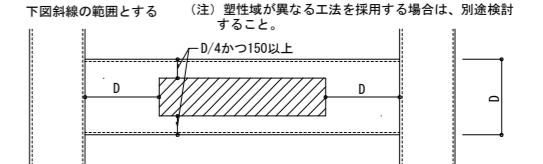
部材	最大間隔 ≤ l	はさみ板 a	軸径 d
2ls - 50×50×6	450	50	※12
2ls - 60×60×5	550	50	※12
2ls - 65×65×6	600	60	16
2ls - 75×75×6	700	60	16

部材	最大間隔 ≤ l	はさみ板 a	軸径 d
2ls - 90×90×7	850	70	20
2ls - 100×100×10	950	70	20

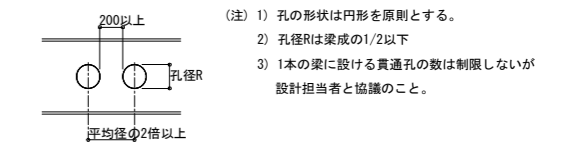
(注) 1) はさみ板を配置する部材は別図に表示。  
2) はさみ板厚は原則として圧縮部材の吐口、継手等のtと同じとする。  
3) ※印は強度上支障がないとき、軸径16mmを用いることができる。

貫通孔補強 採用タイプ ここでは基本原則を示し、実際の補強詳細は施工図により設計担当者と協議の上決定する。

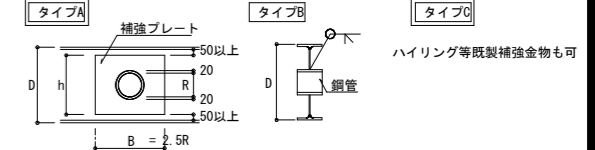
## 貫通孔の設置範囲



## 貫通孔の間隔



## 貫通孔の補強



梁成 (D)	孔径 (R)	タイプA		タイプB	
		補強プレート (t×h×B) 材質	補強プレート (t×h×B) 材質	補強プレート (t×h×B) 材質	補強プレート (t×h×B) 材質
700	300	2×(9×500×700)			
600	300	2×(9×440×600)			
588	300	2×(9×440×600)			
500	250	2×(9×400×500)			
450	200	2×(9×360×450)			
400	200	2×(6×300×400)			
300	150	1×(9×200×300)			

補強PLの材質は母材と同材とする。

## 筋違(建築用ターンバックルボルト・胴)

### 1. 羽子板ボルト

ねじの呼び d	調整ねじの長さ (最小) s	溶接の長さ (最小) l	端部プレート(最小)			※	厚さ t	孔径 R	本数
			はしあき e <sub>1</sub>	へりあき e <sub>2</sub>	切板 e <sub>3</sub>				
M12	100	40	35	22	19	47	4.5	13	1-M12
M16	125	55	45	28	25	59	6	17	1-M16
M20	150	75	50	34	32.5	66	9	21.5	1-M20
M24	175	85	50	38	37.5	70	9	21.5	2-M20

(注) 1) ※ ボルト端から取付ボルト穴心のあき(最小)  
2) 溶接のビード幅は t/2以上とする。

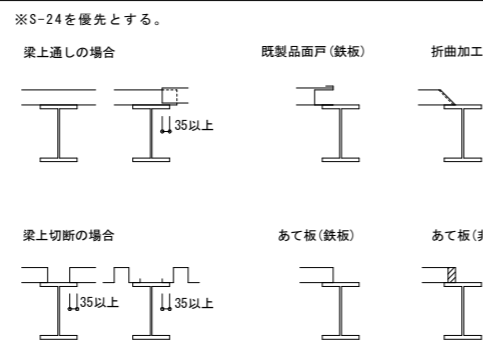
### 2. ターンバックル胴

記号	割弁式	パイプ式	ねじの呼び	寸法		割弁式質量 kg
				鋼の長さ L	ねじの長さ A	
形状			M12	200	≤ 17	≤ 0.300
			M16	250	≤ 23	≤ 0.640
			M20	300	≤ 28	≤ 1.200
			M24	350	≤ 34	≤ 2.090

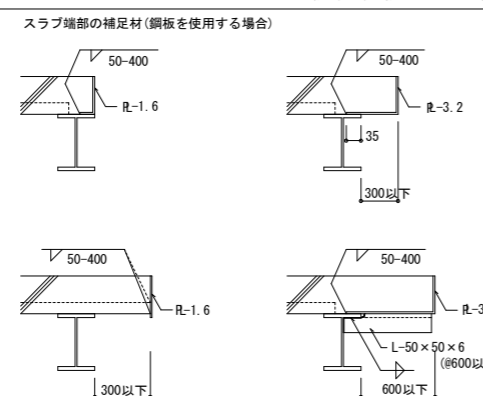
(注) 羽子板ボルト、ターンバックル胴の材質はJISによる。パイプ式胴には重量規定なし。

## デッキプレート関係

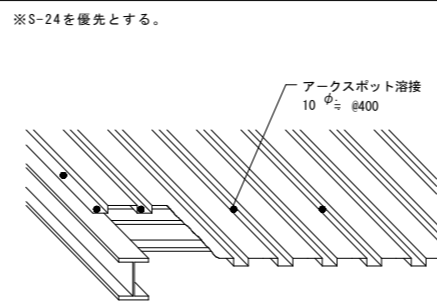
### 1. 受梁へのかかり寸法及び端部処理



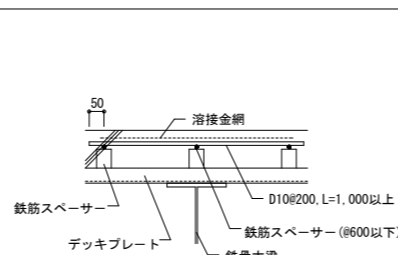
### 4. コンクリートスラブの補足事項



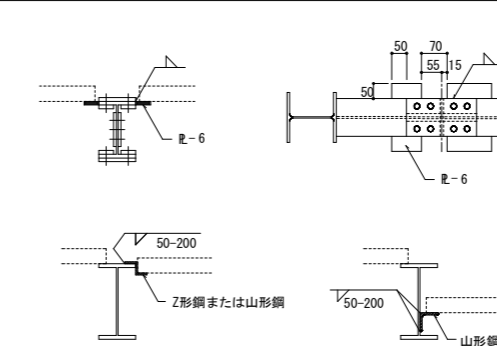
### 2. 梁との溶接及びコネクター



### 5. 大梁上ひびわれ防止筋 (合成デッキスラブ及びフラットデッキスラブの場合)



### 3. 補足受材



## 鉄筋貫通のための孔径

鉄筋の公称径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
貫通孔	21	24	28	31	35	38	43	46

(注) 貫通孔は施工図に基づき、工場においてドリルあけとする。

## アンカーボルト標準寸法

ねじの呼称 d	寸法				備考
	S	l <sub>1</sub>	R	l <sub>0</sub>	
M12	80	56	25	450	
M16	80	71	32	550	
M20	100	90	40	700	
M24	100	112	50	800	
M30	100	140	63	950	

下記外はJIS B 1178を準用する。

ねじの呼称 d	寸法		備考
	S	l <sub>0</sub>	
M12	80	450	
M16	80	550	
M20	100	700	
M24	100	800	
M27	100	910	
M30	100	950	

下記外はJIS B 1178を準用する。

工事名	阿南線 新製対策 一の塚 操作室改修工事(古い手摺模型) (着手日指定型)		
路線名等	一の塚地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室鉄骨基準		
縮尺	-	図面番号	15
会社名			
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部 (阿南)		



# ゲート操作室溶接基準

## 1. 適用範囲

■ 本基準は鉄骨の工場溶接・工事現場溶接を行う場合に適用する。

## 2. 溶接継手の方法及び形状寸法

■ 部分溶込み溶接及び隅肉溶接の形状寸法は設計者が記入するものとする。  
 ■ 適用板厚は5.0mm以下とする。  
 ■ 寸法の単位は全てmmとする。

溶接方法	M アーク手溶接			G ガスシールドアーク半自動溶接			S サブマージアーク溶接			
	■ 開先に対する条件 ■ アーク手溶接の場合、初層に使用する棒径は2.6~5.0とし、ルート間隔、板厚及び溶接姿勢により使いわけするものとする。 ■ 完全溶込み溶接の裏当て金には裏はつりを行う。									
記号	呼称・形状図・寸法			呼称・形状図・寸法			呼称・形状図・寸法			
	B 突合せ継手	C かど継手	T T継手	B 突合せ継手	C かど継手	T T継手	B 突合せ継手	C かど継手	T T継手	
完全溶込み溶接	レ形	MC-BL-2 GC-BL-2	MC-CL-2 GC-CL-2	MC-TL-2 GC-TL-2	SC-BL-2	SC-CL-2	SC-TL-2	SC-CL-2	SC-TL-2	
	レ形	MC-BL-1B GC-BL-1B	MC-CL-1B GC-CL-1B	MC-TL-1B GC-TL-1B	SC-BL-1B	SC-CL-1B	SC-TL-1B	SC-CL-1B	SC-TL-1B	
	K形	MC-BK-2 GC-BK-2	MC-CK-2 GC-CK-2	MC-TK-2 GC-TK-2	SC-BK-2	SC-CK-2	SC-TK-2	SC-CK-2	SC-TK-2	
	I形	MC-BI-2 GC-BI-2	MC-CI-2 GC-CI-2	MC-TI-2 GC-TI-2	SC-BI-2	SC-CI-2	SC-TI-2	SC-CI-2	SC-TI-2	
	I形	MC-BI-1B GC-BI-1B	MC-CI-1B GC-CI-1B	MC-TI-1B GC-TI-1B	SC-BI-1B	SC-CI-1B	SC-TI-1B	SC-CI-1B	SC-TI-1B	
	V形	MC-BV-2 GC-BV-2	MC-CV-2 GC-CV-2	MC-TV-2 GC-TV-2	SC-BV-2	SC-CV-2	SC-TV-2	SC-CV-2	SC-TV-2	
	V形	MC-BV-1B GC-BV-1B	MC-CV-1B GC-CV-1B	MC-TV-1B GC-TV-1B	SC-BV-1B	SC-CV-1B	SC-TV-1B	SC-CV-1B	SC-TV-1B	
	X形	MC-BX-2 GC-BX-2	MC-CX-2 GC-CX-2	MC-TX-2 GC-TX-2	SC-BX-2	SC-CX-2	SC-TX-2	SC-CX-2	SC-TX-2	
	部分溶込み溶接	レ形	MP-BL-2 GP-BL-2	MP-CL-1 GP-CL-1	MP-TL-2 GP-TL-2	SP-BL-1	SP-CL-1	SP-TL-1	SP-CL-1	SP-TL-1
		レ形	MP-BL-1 GP-BL-1	MP-CL-1 GP-CL-1	MP-TL-1 GP-TL-1	SP-BL-1	SP-CL-1	SP-TL-1	SP-CL-1	SP-TL-1
レ形		MP-BL-2 GP-BL-2	MP-CL-1 GP-CL-1	MP-TL-2 GP-TL-2	SP-BL-1	SP-CL-1	SP-TL-1	SP-CL-1	SP-TL-1	

## 3. 溶接部の余盛高さ

余盛高さ		
完全溶込み溶接T継手	完全溶込み溶接突合せ継手	隅肉溶接
$t \leq 40$ $(h = t/4)$	$B < 15$ $0 < h \leq 3$	$0 \leq \Delta h \leq 0.4S$
$t > 40$ $(h = 10)$	$15 \leq B < 25$ $0 < h \leq 4$	$\Delta h \leq 4$
上記は、JASS6(2007年版)の管理許容差を示す。		

## 4. 溶接部の寸法許容差

仕口のずれ (ダイヤフラムとフランジのずれ)	突合せ継手の食い違い	アンダーカット
$t \leq t_0$ の場合 $e \leq t/5$ かつ $e \leq 4$	$t < t_0$ の場合 $e \leq t/4$ かつ $e \leq 5$	$t \leq 15$ $e \leq 1.5$ $15 < t$ $e \leq 1/10$ かつ $e \leq 3$
上記は、「鉄骨造の継手又は仕口の構造方法を定める件」(平成12年5月31日建設省告示1461号)による。 上記項目の測定要領は、「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補修マニュアル」(独立行政法人建築研究所監修2003年版)に準拠し、許容差を超えた場合には設計者・監理者に速やかに報告し、その対応・補修について協議すること。		

## 5. 溶接止端部の処理及び裏当て金

### 1) 完全溶込み溶接

- 原則として鋼製エンドタブを使用する。代替エンドタブを使用する場合は監理者の承認を得ること。ただし、回し溶接工法などにより健全な溶接部が得られると認められる場合は省略することができる。
- エンドタブは直接母材に組立て溶接しない。ただし、組立て溶接を再溶融させる場合は開先内に組立て溶接してもよい。
- 鋼製エンドタブ及び裏当て金の材質 (○SM490A ●母材と同材)
- 鋼製エンドタブを使用する場合の寸法形状は下記を標準とする。

溶接方法	エンドタブ		裏当て金	
	l	B1	t1	B2
手	30~50			9
半自動	40~60	30~50	母材と同厚	9
自動	50~100			12

### 2) 隅肉溶接

- 角部においては原則として回し溶接を行う。

溶接方法	エンドタブ		裏当て金	
	l	B1	t1	B2
手	30~50			9
半自動	40~60	30~50	母材と同厚	9
自動	50~100			12

隅肉溶接	T継手		T2 < T1		T2 > T1	
	T1	T2	T1	T2	T1	T2
T継手						
	$T2 \geq T1$ $S = T1$	$T2 < T1$ $S = T2$	$T2 \geq T1$ $S = T1$	$T2 < T1$ $S = T2$	$T2 \geq T1$ $S = T1$	$T2 < T1$ $S = T2$

## 3) エンドタブの除去

■ 部材ランクCの完全溶込み溶接部に設けたエンドタブは除去すること。但し、設計者・工事監理者の承認を得て省略することができる。  
 ■ 部材ランクA及びBの完全溶込み溶接部に設けたエンドタブに関しては、耐火被覆及びコンクリート等で覆われる場合は原則として除去しない。ただし、鉄筋と干渉する場合及び仕上げ塗装する場合は5.0mmを残して切断し、平滑に仕上げ、この場合、L形切断となる部分は曲線形に行う。

## 4) スカラップ

■ スカラップを設ける場合は溶接作業に支障のない寸法形状とする。  
 ■ 柱・梁接合部のスカラップ加工 ●工場溶接部 ○現場溶接部  
 ●ノンスカラップ ○ノンスカラップ  
 ○複合円型スカラップ ○複合円型スカラップ

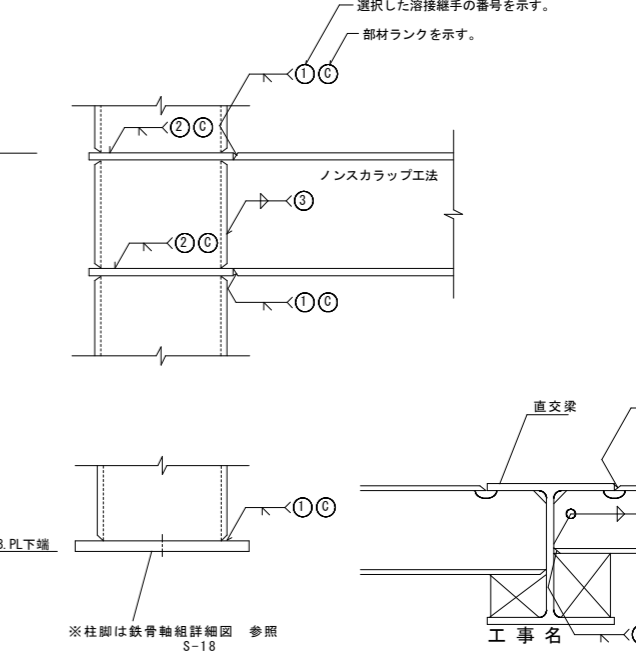
## 6. ガスシールドアーク溶接法による完全溶込み溶接部の条件・管理

400N/mm級および490N/mm級鋼材の場合

部材ランク	溶接条件	溶接管理	
A	規定なし	規定なし	
B	入熱40kJ/cm以下、かつバス開温度350℃以下	施工要領書に、(1)溶接姿勢、ワイヤ径、標準的な溶接速度等を考慮した溶接電流・電圧の設定、(2)溶接作業の中断・再開時のバス開温度管理について明記すること。	
C	YGW-11	(下記以外の400N級鋼) 入熱40kJ/cm以下、かつバス開温度350℃以下	施工要領書に、(1)溶接姿勢、ワイヤ径、(2)入熱(溶接電流・電圧、溶接速度)、バス開温度、(3)入熱・バス開温度の検査方法、抜取率、(4)溶接作業の中断・再開時のバス開温度管理、について明記すること。
	YGW-15	(490N級STKR・BCR・BCP鋼) 入熱30kJ/cm以下、かつバス開温度250℃以下	規定の溶接条件に基づいて溶接された印として、溶接技術者が溶接部近傍にサインを行い、溶接技術者がそれを確認すること。
	YGW-18	(490N級鋼) 入熱30kJ/cm以下、かつバス開温度250℃以下	施工要領書に、(1)溶接姿勢、ワイヤ径、標準的な溶接速度等を考慮した溶接電流・電圧の設定、(2)溶接作業の中断・再開時のバス開温度管理、について明記すること。

\* 部材ランクA：原則的に、極めて稀な大地震でも塑性化の恐れのない部材。2次部材等。  
 部材ランクB：原則的に、柱・大梁等の主要耐震要素で、極めて稀な大地震でもほぼ弾性的な挙動をする部材  
 部材ランクC：原則的に、柱・大梁等の主要耐震要素で、極めて稀な大地震でも十分な塑性変形能力を期待する部材  
 \*\* ただし、溶接金属の機械的性質を確保できる入熱またはバス開温度で、施工試験により確認されている場合は、施工要領書に明記することにより、それを規定値とすることができる。  
 \*\*\* 490N/mm<sup>2</sup>を超える部材、または上記以外のソリッドワイヤを使用する場合の溶接条件・管理方法については、別途定めることとする。

## 溶接要領

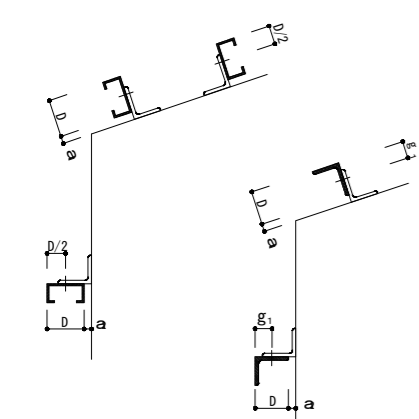


工事名	防府 耐震対策 一の堰 操作室改修工事(手回し型) (手回し型)
路線名等	一の堰地区
工事箇所	阿南市宝田町
図面名	ゲート操作室溶接基準
縮尺	- 図面番号 16
会社名	
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部 (阿南)

# ゲート操作室母屋・胴縁関係

## 折版取合関係

### 1. 取付方向及び取付位置

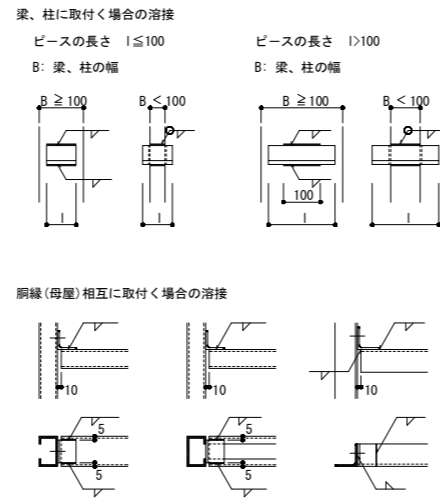


D : 母屋・胴縁のせい  
g1 : 標準ゲージ  
a : 母屋の肌すき寸法 10<sup>2</sup>5  
a : 胴縁の肌すき寸法 10<sup>2</sup>5

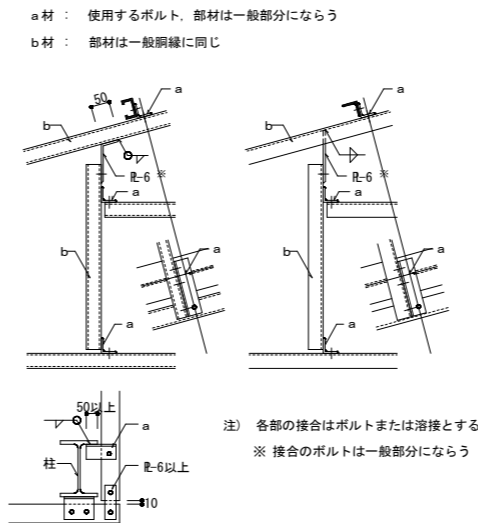
### 2. 取付部材(ピース)の寸法

		取付部材(ピース)	
(D)	65	L- 75 × 75 × 6	
	75	L- 90 × 90 × 7	
	90	L- 100 × 100 × 7	
	100	L- 100 × 100 × 7	
	120	L- 120 × 120 × 8	
取付ボルト	2-M12		
	1-M16 (孔径は軸径+1)		

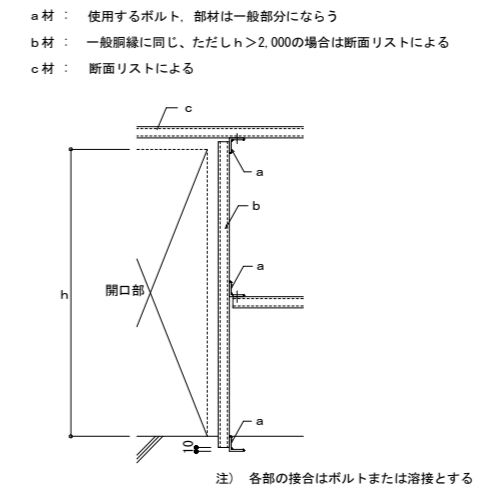
### 3. 取付部材(ピース)の接合



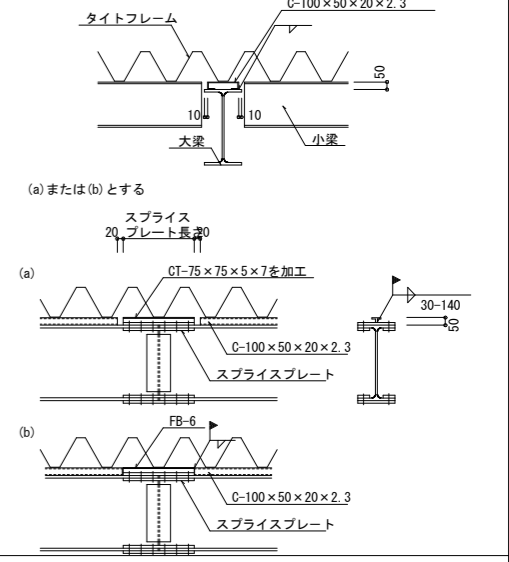
### 4. のほり胴縁付近及び壁の出隅部



### 5. 壁開口周辺部

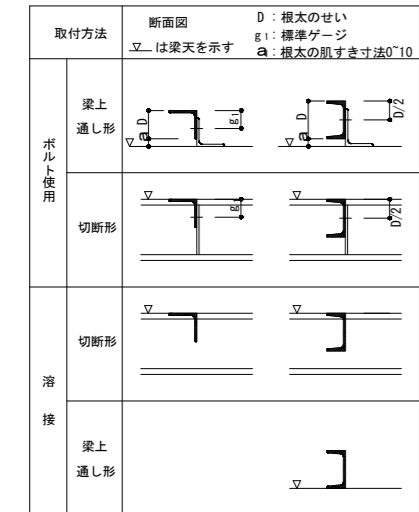


### 1. 折版取合部分詳細図



## 根太関係

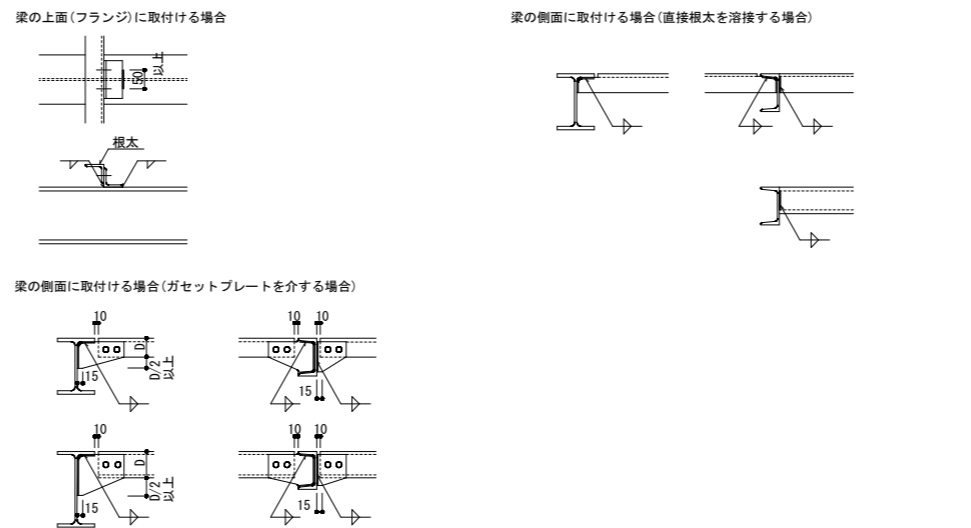
### 1. 取付位置及び取付寸法



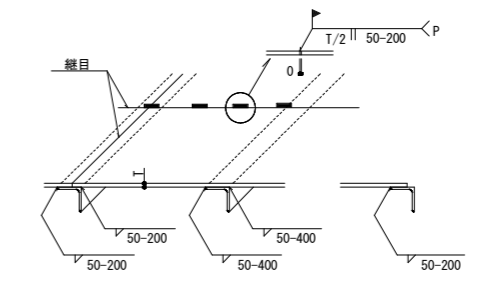
### 2. 取付部材の寸法(ボルト使用の梁上通し形の場合)

		取付部材(ピース)	
(D)	50	L- 50 × 50 × 6	
	60	L- 60 × 60 × 5	
	65	L- 75 × 75 × 6	
	75	L- 75 × 75 × 6	
	90	L- 90 × 90 × 7	
	100	L- 90 × 90 × 7	
125	L- 100 × 100 × 7		
取付ボルト	2-M12	p=50 e=25	
	2-M16	p=60 e=35	
	2-M20	p=70 e=40	

### 3. 取付部材と梁の接合



### 4. 鋼板及び綫鋼板の継目の溶接



## 根太・つなぎ材の仕口

### 1. 山形鋼 (SS400)

部材	接合部			
	H.T.B	G.P.L	e	p
L- 50 × 50 × 6	2-M12	6	35	60
L- 60 × 60 × 5	2-M12	6	35	60
L- 65 × 65 × 6	2-M16	6	35	60
L- 75 × 75 × 6	2-M16	6	35	60
L- 90 × 90 × 7	2-M20	9	40	70

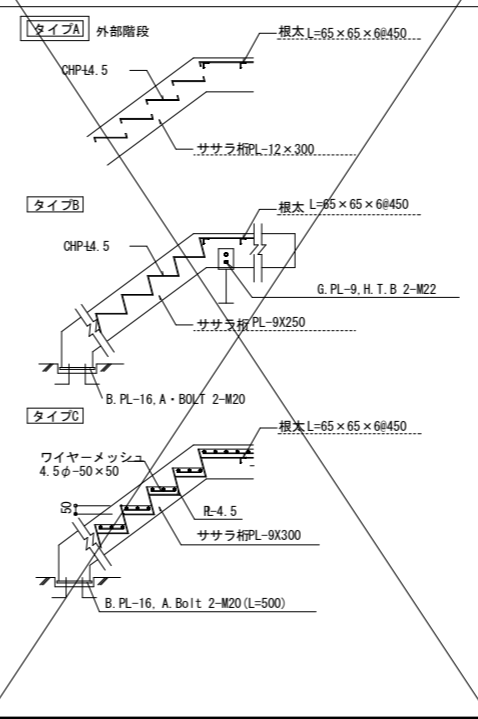
### 2. 溝形鋼 (SS400)

部材	接合部				タイプ
	H.T.B	G.P.L	e	p	
[ -100 × 50 × 5	2-M16	6	35	60	A
[ -125 × 65 × 6	2-M16	6	35	60	A
[ -150 × 75 × 6.5	2-M16	6	35	60	B
[ -180 × 75 × 7	2-M20	9	40	70	B
[ -200 × 80 × 7.5	2-M20	9	40	70	B

### 3. 鋼管 (STK400)

部材	接合部			
	H.T.B	G.P.L	e	p
φ-48.6 × 3.2	2-M16	6	35	60
φ-60.5 × 3.2	2-M16	6	35	60
φ-76.3 × 3.2	2-M16	6	35	60

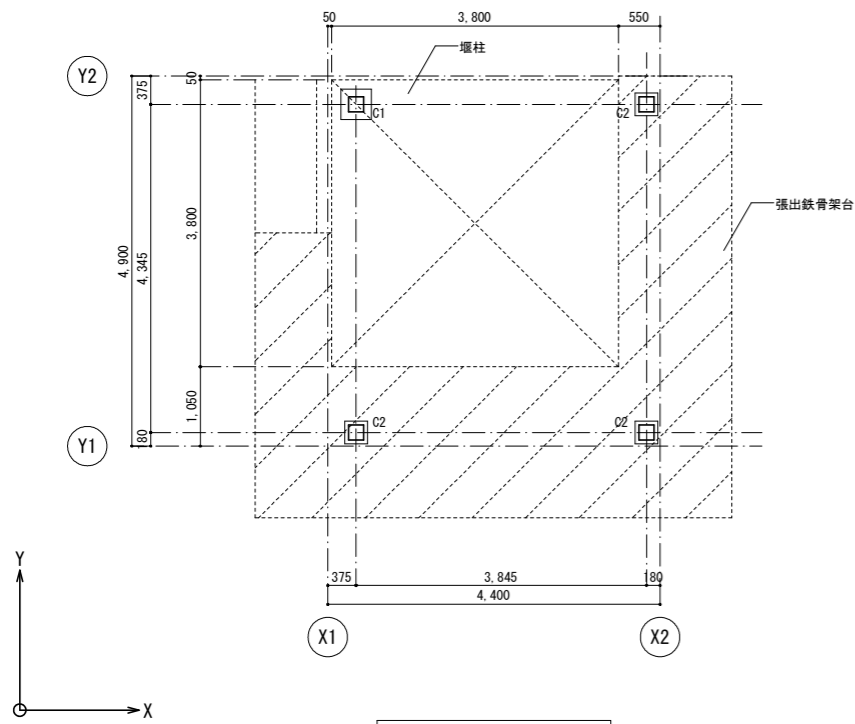
## 鉄骨階段



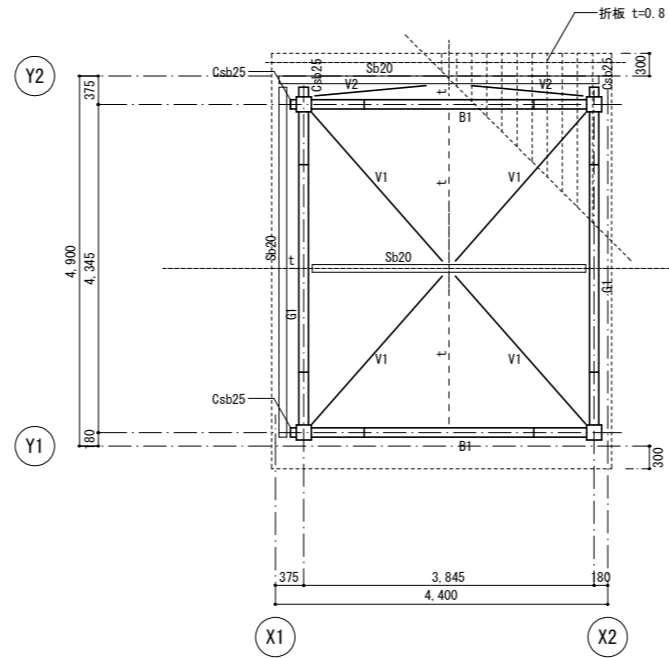
工事名	防犯対策 一の塚 操作室改修工事(既設手摺壁型) (造手日指定型)
路線名等	一の塚地区
工事箇所	阿南市宝田町
図面名	ゲート操作室母屋・胴縁関係
縮尺	- 図面番号 17
会社名	
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部 (阿南)

# ゲート操作室伏図・軸組図・リスト・詳細図(1/2)

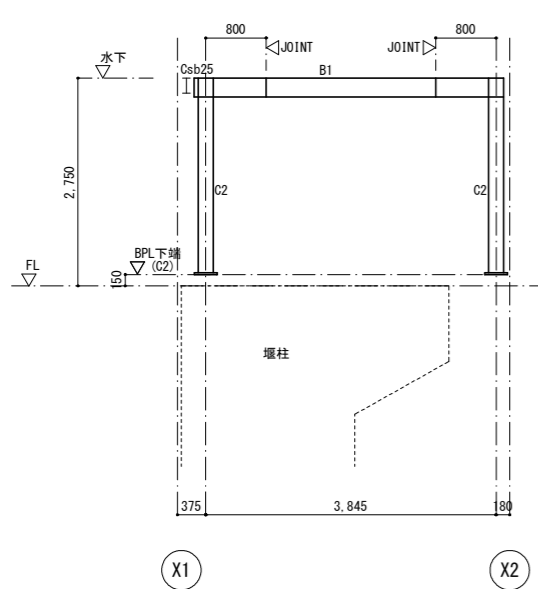
S=1:50



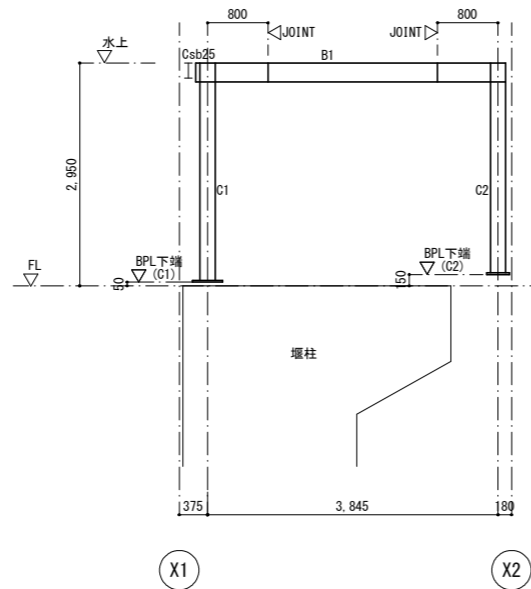
基礎伏図 S=1:50 (A1)  
S=1:100 (A3)



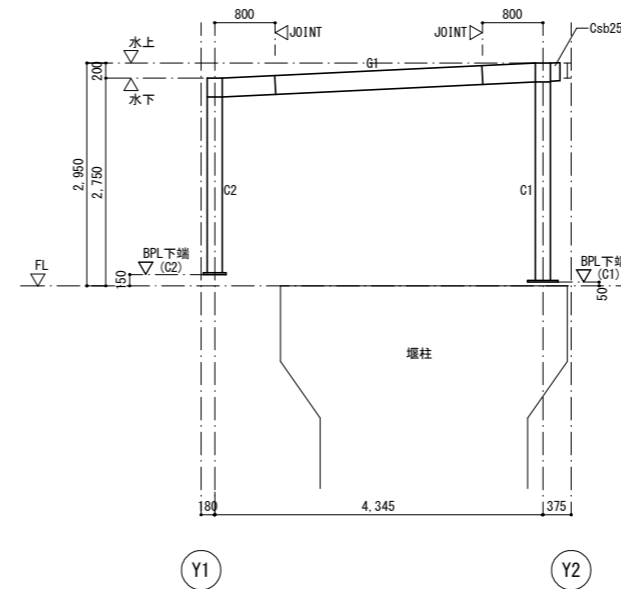
R階床梁伏図 S=1:50 (A1)  
S=1:100 (A3)



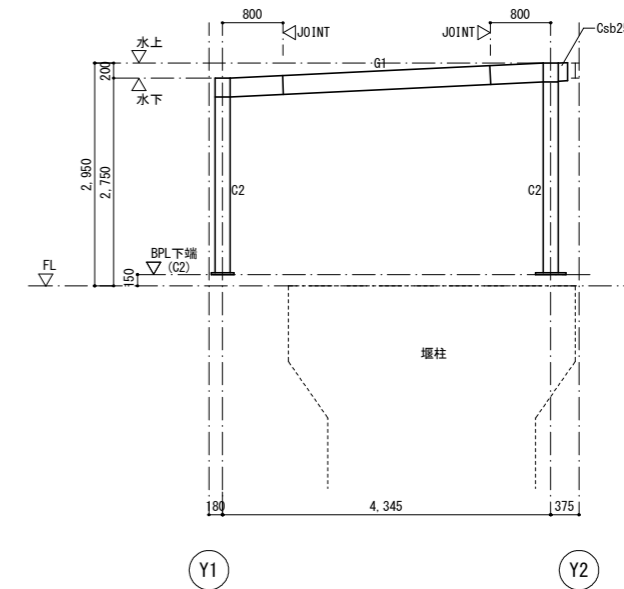
Y1通軸組図 S=1:50 (A1)  
S=1:100 (A3)



Y2通軸組図 S=1:50 (A1)  
S=1:100 (A3)



X1通軸組図 S=1:50 (A1)  
S=1:100 (A3)



X2通軸組図 S=1:50 (A1)  
S=1:100 (A3)

工事名	阿南 耐震対策 一の堰 操作室改修工事(古い手種模型)(着手日指定型)		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室伏図・軸組図・リスト・詳細図(1/2)		
縮尺	S=1:50	図面番号	18
会社名			
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部(阿南)		

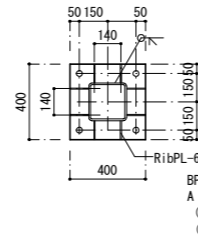
# ゲート操作室伏図・軸組図・リスト・詳細図(2/2)

S=1:50

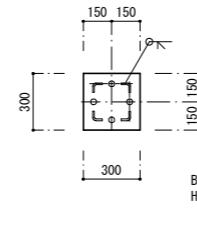
鉄骨部材断面表

共通事項 特記なき限り下記とする。  
 1. 鋼材はSS400とする。  
 2. 高力ボルトは、全てHTB (F10T又は、S10T)とする。  
 外部露出溶融亜鉛メッキの場合はHTB (F8T)とする。

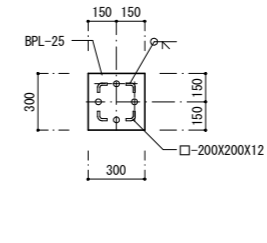
種別	符号	部材	仕口	備考
柱	C1, C2	□-200×200×9		STKR400
大梁	B1, G1	H-250×125×6×9		
小梁	Sb20	H-200×100×5.5×8	GPL-6, HTB 2-M16	
	Csb25	H-250×125×6×9		
ブレース	V1	1-M20	GPL-9, HTB 1-M20	
	V2	1-M16	GPL-9, HTB 1-M16	
座屈止	t	C-100X50X20X2.3	GPL-6, HTB 2-M16	



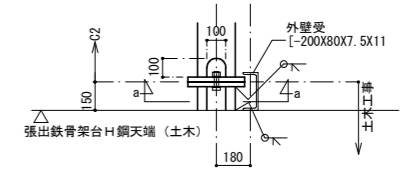
C1



C2



a-a SEC



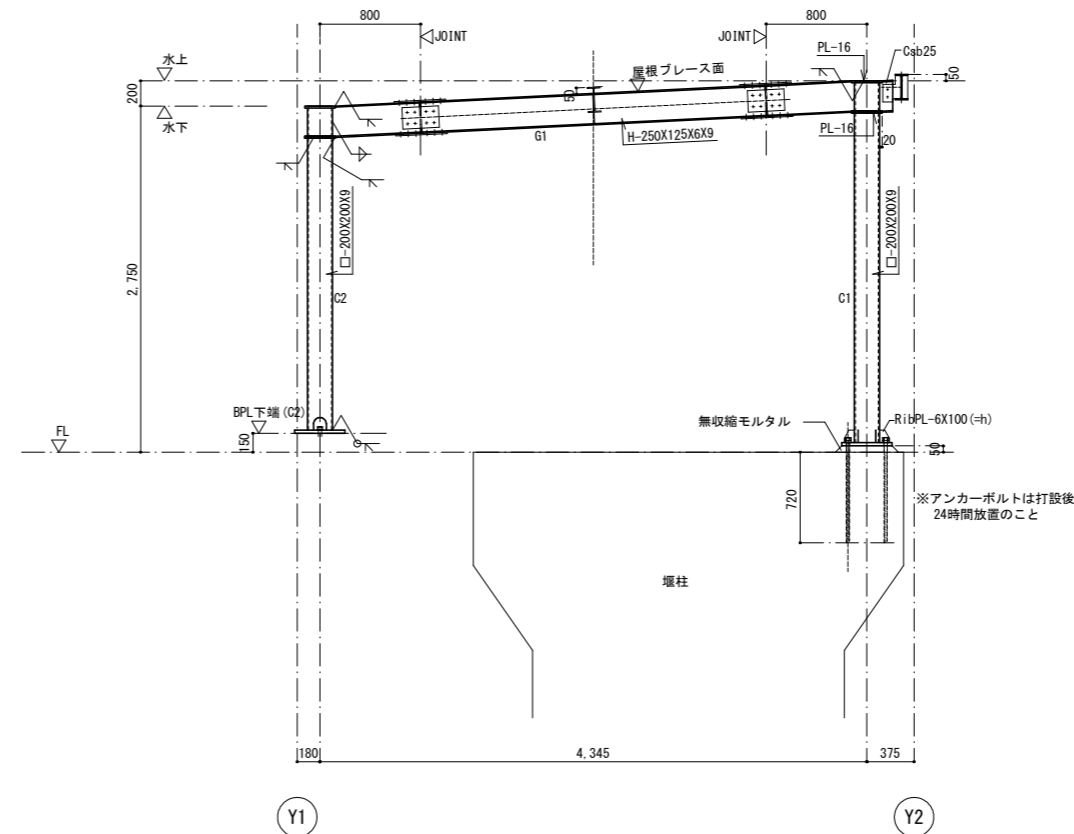
S=1:20 (A1) 共通事項 特記なき限り下記とする。  
 S=1:40 (A3)  
 1. 高力ボルトは、全てHTB (F10T又は、S10T)とする。  
 2. SPLはSS400とする。  
 外部露出溶融亜鉛メッキの場合はHTB (F8T)とする。

大梁継手断面表

部材	B1, G1	H-250×125×6×9 (SS400)
形状		
フランジ	外側添板 内側添板	PL-12×125×410 (SS400) 6-M16
ウェブ		2PL-6×170×290 (SS400) 4-M16

柱脚リスト

S=1:20 (A1)  
 S=1:40 (A3)



X1通軸組詳細図

S=1:30 (A1)  
 S=1:60 (A3)

工事名	阿南 新設第一の堰 操作室改修工事(包い手補強型)(着手日指定型)		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室伏図・軸組図・リスト・詳細図(2/2)		
縮尺	S=1:50	図面番号	19
会社名			
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部(阿南)		

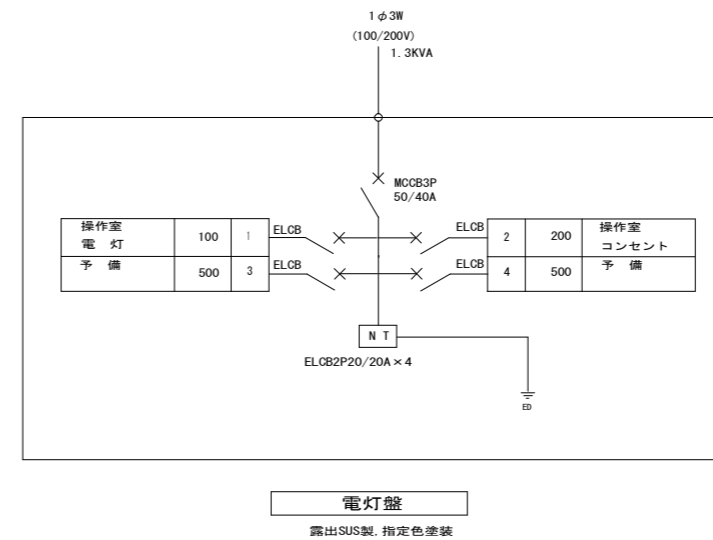
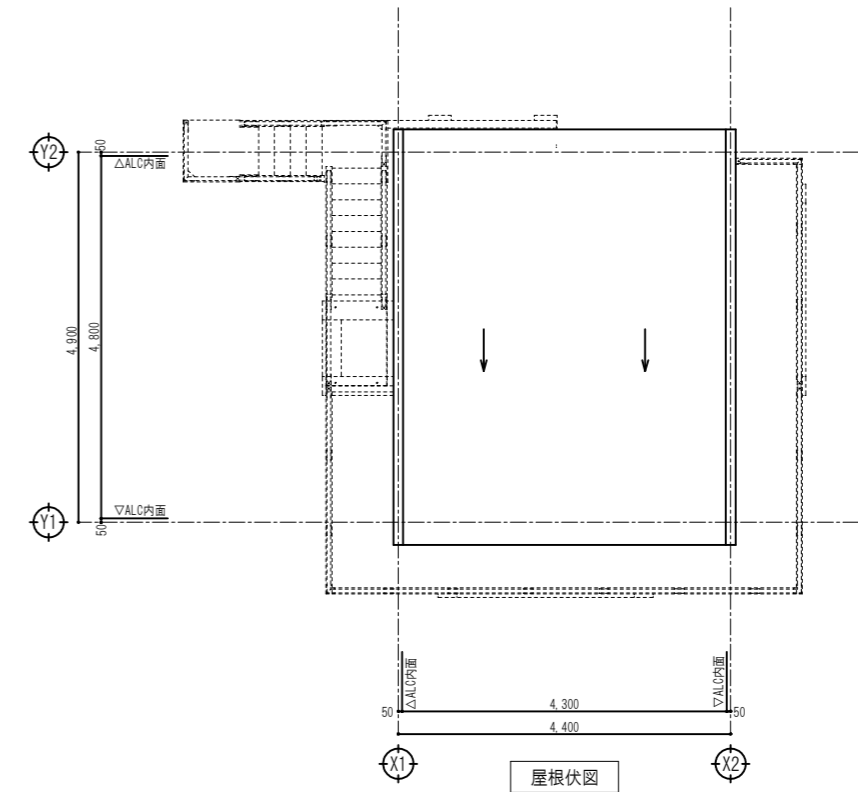
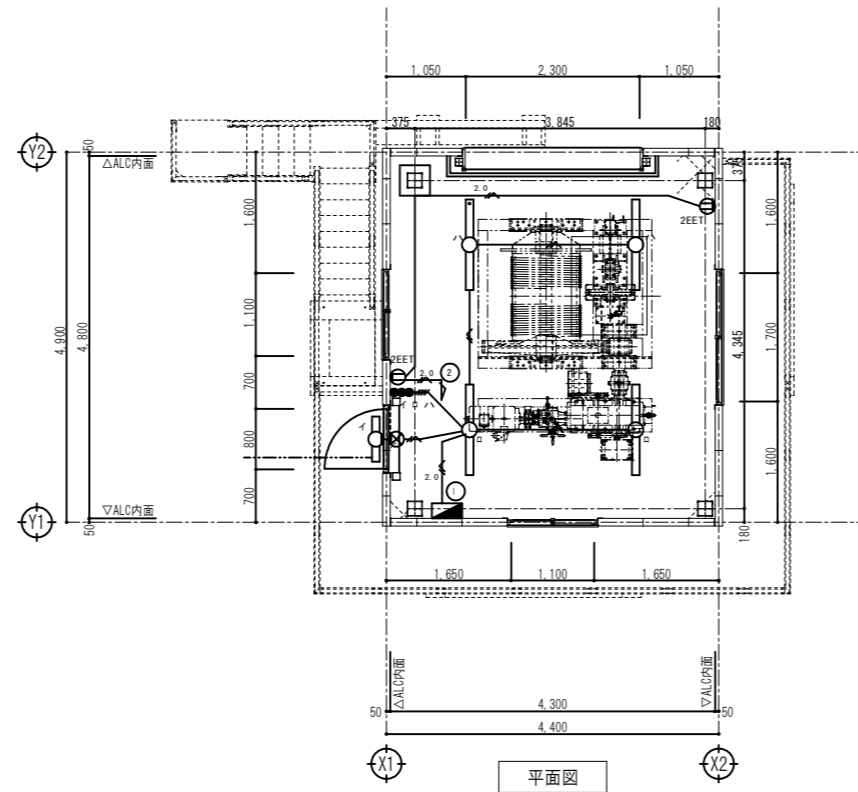
# ゲート操作室電気設備配線図

S=1:50

操作室	外灯
A42 x 4	B11 x 1

照明器具参考図

A30	LED20.6W	3060lm	SUS
パイプ形 L=500 x 2			
LSS1MP/RP-4-30			
B13	LED14W	1480lm	耐塩仕様
LBF3MP/RP-2-13			



凡例	記号	名称	備考
		電灯盤	
		照明器具	参照参照
		照明器具	参照参照
		埋込コンセント	2P15A x 2 EET付 ステンレスプレート
		埋込スイッチ	1P15A x 3 ステンレスプレート
		カバープレート	丸型 SUS

注記(改修後)			
1. 図中特記なき配管配線は下記とする。			
(電灯設備)			
	EM-1E1.6 x 2 (G16)	(露出配管)	
	EM-1E1.6 x 4 (G16)	(露出配管)	
	EM-1E2.0 x 2, 1.6 x 1 (G16)	(露出配管)	
(コンセント設備)			
	EM-1E2.0 x 2, 1.6 x 1 (G16)	(露出配管)	

工事名	防阿群 耐震対策 一の堰 操作室改修工事(古い手種換型) (着手日指定型)		
路線名等	一の堰地区		
工事箇所	阿南市宝田町		
図面名	ゲート操作室電気設備配線図		
縮尺	S=1:50	図面番号	20
会社名			
事業者名	徳島県南部総合県民局農林水産部(阿南)		